

いわき市スポーツ推進計画 (中間見直し)



～ スポーツでつながるまち いわき ～

令和3年3月 策定

令和8年4月 中間見直し



目 次

第1章 計画策定にあたって

1	計画策定の背景	1
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	2
4	国・県の動向	3
5	スポーツの実施状況に関するアンケート調査	4
6	中間見直しの方針	5

第2章 本市のスポーツを取り巻く現状と課題

1	社会情勢等の変化	6
2	市民スポーツ活動の現状	9
3	スポーツ関係団体・事業者の現状	19
4	スポーツ施設の現状・利用実態	22
5	スポーツ大会・イベントの現状	24
6	現状から見た課題	25

第3章 計画の基本方針と目標

1	基本方針	28
2	基本目標	29

第4章 スポーツ施策の推進

<u>1</u>	<u>ライフステージ</u>	
	生涯スポーツ活動の推進	32
<u>2</u>	<u>アスリート</u>	
	競技スポーツの推進	34
<u>3</u>	<u>ノーマライゼーション</u>	
	障がい者スポーツの推進	35
<u>4</u>	<u>ネットワーク</u>	
	スポーツに関わる人・まち・情報のネットワーク強化	36
<u>5</u>	<u>サポーター</u>	
	指導者・ボランティアの育成	37
<u>6</u>	<u>ハード</u>	
	施設の整備・管理運営の推進	38
<u>7</u>	<u>スポーツツーリズム</u>	
	地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進	39

<u>8</u> サイクルスポーツ	
自転車を活用した健康増進と地域資源を活用した サイクルスポーツの推進	．．．．． 39
<u>9</u> スポーツコミッション	
スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化	．．．．． 42
<u>10</u> いわきFC	
いわきFCとの連携	．．．．． 43

第5章 計画の進行管理

1	スポーツ推進に向けた主体と役割	．．．．． 44
2	計画の進行管理体制	．．．．． 46
3	改定に向けて	．．．．． 46

用語の解説	．．．．． 47
-------	----------

資料編

1	計画策定の経緯	．．．．． 1
2	いわき市スポーツ推進計画検討委員会委員名簿	．．．．． 2
3	いわき市スポーツ推進計画中間見直しの経緯	．．．．． 3
4	いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討委員会委員名簿	．．．．． 4
5	スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要	．．．．． 5
6	令和7年度スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要	．．．．． 6
7	スポーツ施設の立地状況	．．．．． 7
8	サイクルスポーツ関連	．．．．． 9

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景

近年、少子高齢化の進行、ライフスタイルや社会経済情勢の変化などに伴い、スポーツに対するニーズもますます多様化しています。

このような中、国においては、スポーツを取り巻く環境の変化を踏まえ、平成23年にスポーツを推進するための基本的な法律として「スポーツ基本法」を制定しました。

本法では、スポーツは世界共通の人類の文化として位置づけ、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であると規定されています。

また、国はこのスポーツ基本法に基づき、平成24年3月、国、地方公共団体、スポーツ団体などの関係者が一体となって、スポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進していくための重要な方針として「スポーツ基本計画」を策定し、令和4年3月には、令和4年度から令和8年度までを対象とした「第3期スポーツ基本計画」を策定しています。

さらに、福島県では、令和4年3月に「福島県スポーツ推進基本計画」を策定し、令和4年度から令和12年度までの9年間に取り組むべき、施策や目標等を定めたところです。

本市のスポーツ振興に関する基本的計画の策定状況としては、「市民一人ひとりの健康で豊かなスポーツライフの実現」を目指すため、平成26年3月から令和3年3月までの計画期間において「いわき市スポーツ推進基本計画」を策定しました。

その後、本市のスポーツを取り巻く環境の変化や市民ニーズを踏まえつつ、国の「第2期スポーツ基本計画」などとの整合を図りながら、スポーツを通じた市民の健康づくり、さらにはスポーツを通じた地域活性化やまちづくりを目指して、今後のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するため、「いわき市スポーツ推進計画」を令和3年3月に新たに策定し、令和12年度までの10年間を計画期間と位置づけております。

なお、本市を取り巻く社会情勢の変化や計画の進捗状況等を分析・評価し、必要に応じた見直しを5年を目途に行うものとしていたことから、国や福島県のスポーツ施策の動向等を踏まえつつ、本市のスポーツ活動の現状に即して一部見直しを行うものです。

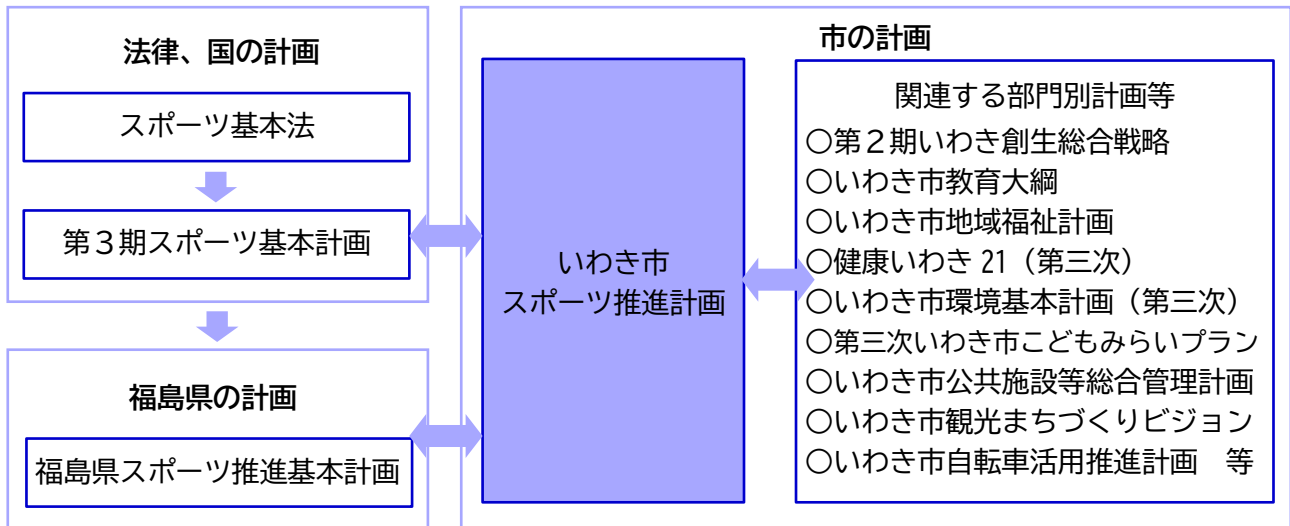
★ 本計画における「スポーツ」の定義

本計画では、「スポーツ」を幅広く捉え、競技種目だけにとどまらず、体力づくりや介護予防等を目的とする体操や軽い運動、ウォーキングやジョギング、レクリエーション、幼児の遊びなど、レベルや内容に関わらず身体を使った運動全てを含んで「スポーツ」という言葉を用います。

2 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法に基づき、国・県のスポーツ推進基本計画の趣旨を踏まえながら、本市の特性を活かし、実情に即したスポーツ振興を図るための基本目標及び施策の方向を定めるものです。

計画の位置づけ



※いわき市観光まちづくりビジョンの計画主体は一般社団法人いわき観光まちづくりビューロー

3 計画の期間

本計画の期間は、令和3年度から令和12年度までの10年間とします。

なお、本市を取り巻く社会経済情勢の変化や計画の進捗状況等を分析・評価し、必要に応じた見直しを、5年を目途に行うものです。

本市スポーツ推進計画と関連計画の計画期間

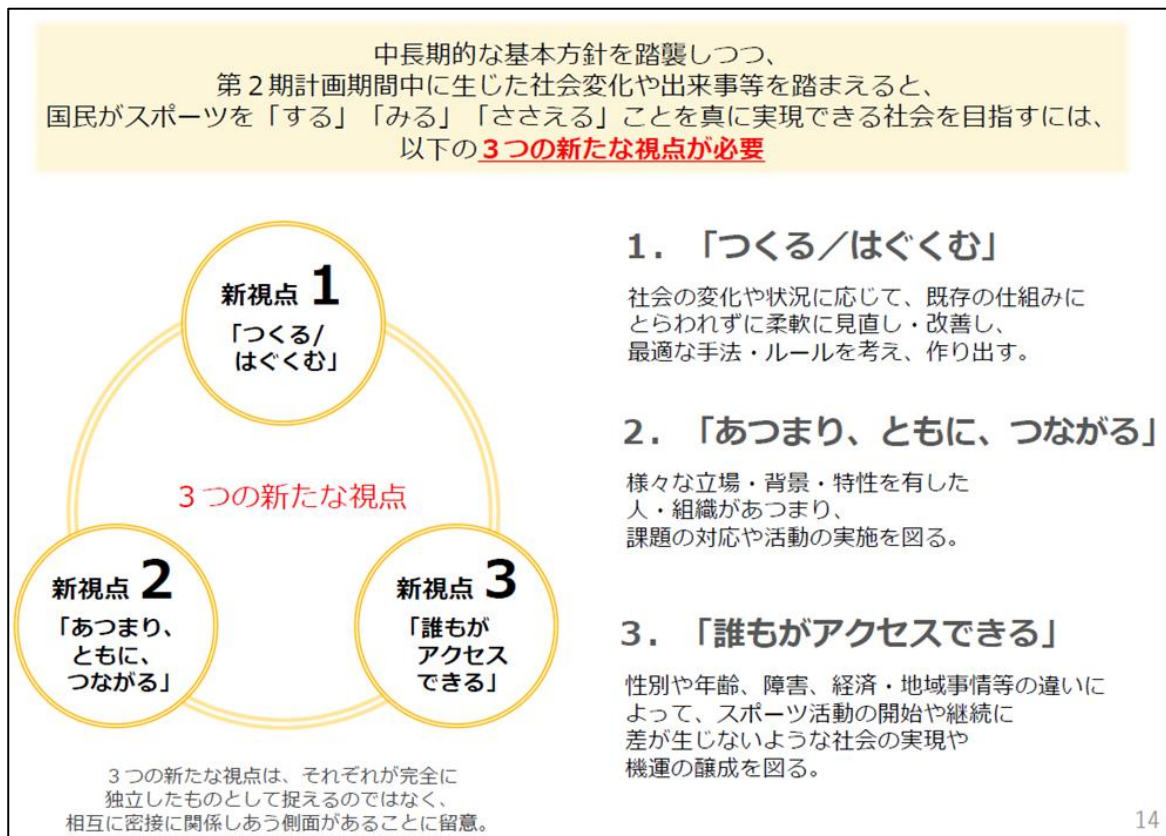
計画	年度	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7	令和8	令和9	令和10	令和11	令和12
		2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
いわき市スポーツ推進計画						見直し					
		令和3年度～令和12年度									
いわき創生総合戦略		令和3年度～令和7年度									
国のスポーツ基本計画		第3期スポーツ基本計画									
県のスポーツ推進基本計画		福島県スポーツ推進基本計画（令和4年度～令和12年度）									

4 国・県の動向

(1) 国の動向

第3期スポーツ基本計画（令和4年3月策定） 計画期間【令和4年～令和8年】
 国では、第2期計画期間中において、新型コロナウイルス感染症の影響により、スポーツ活動が制限されたこと、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が1年延期後、無観客で開催されたことなどを受け、スポーツを通じた地域活性化や健康増進、経済発展、国際理解の促進など「スポーツが社会活性化等に寄与する価値」を再認識することとなったとしています。

【スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策】



【今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む 12 の施策】

① 多様な主体におけるスポーツの機会創出	⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり
② スポーツ界におけるDXの推進	⑧ スポーツを通じた共生社会の実現
③ 国際競技力の向上	⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
④ スポーツの国際交流・協力	⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材
⑤ スポーツによる健康増進	⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保
⑥ スポーツの成長産業化	⑫ スポーツ・インテグリティの確保

(2) 県の動向

福島県スポーツ推進基本計画(令和4年3月策定)計画期間【令和4年～令和12年】
 福島県では、福島県スポーツ推進基本計画(平成25年～令和2年)の期間内における、東京2020オリンピック・パラリンピック、国の第2期スポーツ推進基本計画、東日本大震災・原子力災害からの復興状況など福島県を取り巻く社会やスポーツ環境の変化、新型コロナウイルス感染症への対応などを踏まえ、令和4年3月に「福島県スポーツ推進基本計画」を策定したところです。
 計画は、「4つの柱」で構成し、「楽しむ、競う、ともに、つなぐ」という視点で施策の推進を図ることとしています。

計画の基本的な考え方

基本理念 県民の誰もが豊かなスポーツライフを創造できる 「生涯スポーツ社会の実現」



施策の推進における取組

- 施策の柱1 生涯スポーツの推進に関する取組み
- 施策の柱2 競技スポーツの推進に関する取組み
- 施策の柱3 障がい者スポーツの推進に関する取組み
- 施策の柱4 オリンピック・パラリンピックのレガシーの推進に関する取組み

5 スポーツの実施状況に関するアンケート調査

本市におけるスポーツ活動の現状を把握するため、本計画策定時と同様に、市民アンケートを実施しました。

スポーツの実施状況に関するアンケート調査

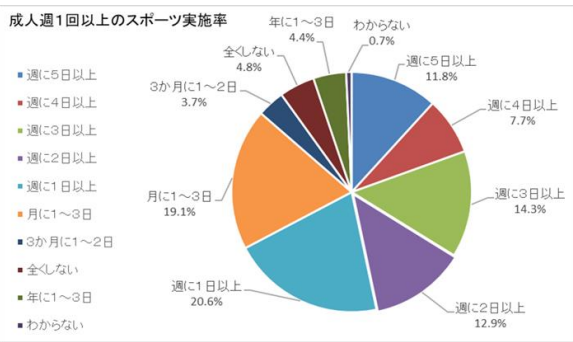
	令和元年度	令和7年度
調査対象	市内に居住する18歳以上の市民。 ※ 地域性、男女別、世代別などの属性に配慮し、住民基本台帳より3,000人を無作為に抽出	市内に居住する18歳以上の市民。
実施期間	令和元年12月12日(木)～令和2年1月24日(金)	令和7年5月1日(木)～令和7年6月30日(月)
調査方法	郵送配布・回収	インターネットによるアンケート調査 ※ 経費削減と集計・分析等の時間短縮のため、インターネットによる調査を実施
調査内容	スポーツ活動の実施状況、スポーツへの関心について、スポーツイベント等への関わりについて、等	令和元年度と同じ。
回答数	886件(回答率29.5%)	272件

今回のアンケート調査では、地域別、世代別など対象者に偏りのないよう属性分布に配慮した調査ができないことから、前回の調査結果と単純比較は行わず「参考値」として取り扱います。

【参考】令和7年度スポーツの実施状況等に関するアンケート調査「成人の週1回以上の運動実施率」

	令和元年	令和12年 (目標値)
いわき市	51.1%	65%
福島県	49.9%	65%
全国	56.5%	70%

いわき市では、「いわき市スポーツ推進計画」に位置付けした各取り組みを推進することで、令和12年までに、成人の週1回以上の運動実施率65%を達成することを目標としている。



令和7年度に実施したアンケート調査では、週に1日以上運動をすると回答したのが、週5日以上（11.8%）、週4日以上（7.7%）、週3日以上（14.3%）、週2日以上（12.9%）、週に1日以上（20.6%） 合計 **67.3%**

令和3年に策定した、「いわき市スポーツ推進計画」の目標値を上回る結果となった。

6 中間見直しの方針

今回は、中間見直しであり、市民のスポーツ活動の現状を把握するために実施したアンケート結果も「参考値」として扱うことから、計画策定時に掲げた基本方針「スポーツでつながるまちいわき」をめざし課題解決に必要な【参加促進・基盤整備・地域活性化】について、10の基本目標を継承しつつ、国の第3期スポーツ基本計画や県のスポーツ推進基本計画における基本的な考え方や現計画策定後の本市におけるスポーツの動向、社会情勢等を踏まえた修正を行いました。

第2章

本市のスポーツを取り巻く現状と課題

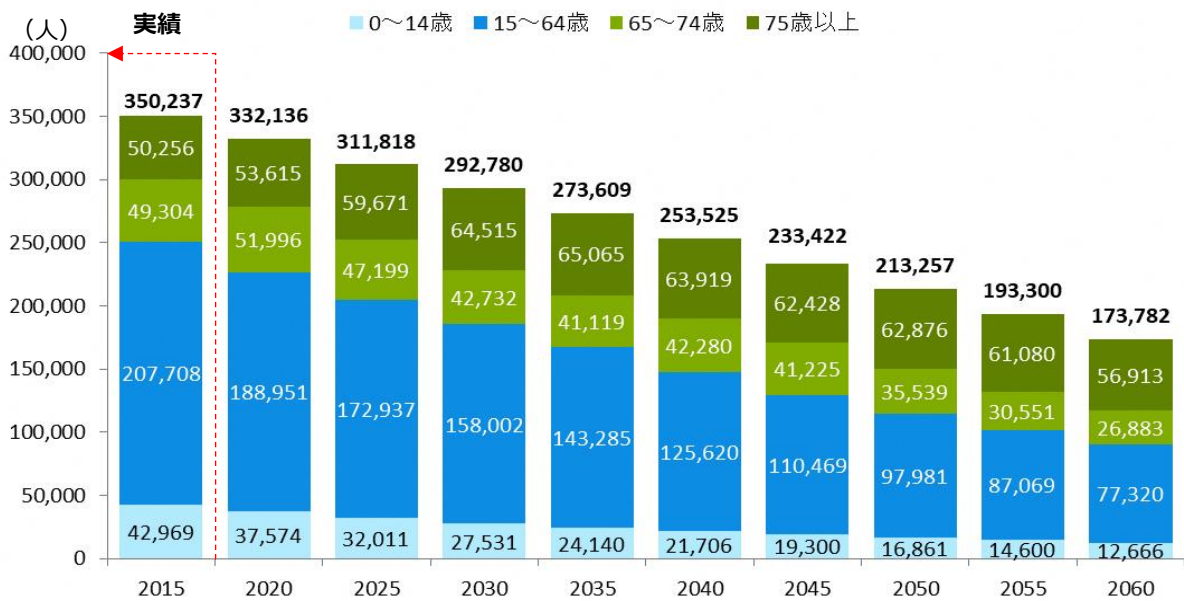
1 社会情勢等の変化

(1) 人口減少、少子・高齢化の進行

人口減少や少子高齢化の急速な進行により、地域活力の低下や財政状況の厳しさが増えています。本市の2025年（令和7年）の人口は314,640人（※）であり、そのうち、年少人口（15歳未満）の構成比は10.4%、生産年齢人口（15～64歳）は54.2%、老年人口（65歳以上）は35.4%となっていますが、今後も人口減少と少子高齢化は進み、本計画の計画期間である2030年（令和12年）に、人口は292,780人まで減少し、年少人口は9.4%に低下し、老年人口は36.6%まで高まることが予測されています。

このような人口動態は、スポーツを「する」「みる」「ささえる」「知る」需要の全体量の減少をはじめ、スポーツ団体の加入者の減少、指導者や団体役員などの高齢化や人材不足をもたらしており、一方では、高齢者の健康づくりが重要になるなど、市民のスポーツ活動にも影響を与えています。

本市の人口の推移（基準推計）



資料：実績値 国勢調査

推計値 いわき市人口ビジョン 令和3年3月 いわき市

※ 令和3年3月に策定した「いわき市人口ビジョン」における本市の推定人口は、311,818人。その後人口ビジョンの推計は行っておらず、2025年（令和7年）4月1日現在の人口314,640人と差が生じています。

(2) スポーツによる健康づくり

「スポーツ基本法」の前文に「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」と規定されているとおり、国民の医療費が増加する中、運動・スポーツに取り組むことによる効果として、健康増進、健康寿命の延伸が注目されるようになってきています。

そのため、スポーツを通じた健康増進を重点的に推進し、運動・スポーツにより健康寿命が平均

寿命に限りなく近づくような社会の構築を目指すことが重要となっています。

(3) ライフスタイルの多様化

経済的豊かさを目指す「経済志向」や金銭に換算できない豊かさを求める「生活志向」など市民の働き方や暮らし方のライフスタイルが多様化する一方で、若者の流出や高齢化等により、地域のコミュニティの弱体化が進んでいます。

また、ICTの劇的な進化は、世界中のスポーツ情報や、身近なスポーツ・健康づくりの情報がオンラインでタイムリーに入手できるなど、日常生活においてスポーツへの参加を向上させている一方で、オンラインショッピングやオンラインゲームなどの普及は、外出や体を動かす機会を減らす要因となっています。

(4) 新たなスポーツ種目の増加

スポーツの種目は、19世紀にイギリスで誕生して世界中に伝播したサッカーやテニスなどの競技中心の「近代スポーツ」から、フットサルやソフトテニスなどの人間の多様なニーズに合わせて誰でも身近で手軽に参加できる「ニュースポーツ」へと発展して加わってきました。

その後、ニュースポーツの中でもサイクリングやスケートボード、スポーツクライミングなどの「エクストリームスポーツ」は、音楽やファッションを取り込んで若者を中心とするサブカルチャーを形成しつつ、オリンピックにおける競技化が進んでいます。

また、障がい者スポーツに関連して、障がい者と健常者がともにプレイする「ユニバーサルスポーツ」や多様な身体能力とニーズをもつ参加者全員が能力を出し切る「オルタナティブスポーツ」などの考えも提唱されてきています。

このように、時代とともに、スポーツの種目は、新しい考えや種目が加わってきており、多様な運動能力やニーズに対応するものが増えています。

本市においても、防潮堤を活用したサイクリングルート「いわき七浜海道」やサイクルステーション、21世紀の森公園内にスケートボード広場などのエクストリームスポーツに対応した施設を新たに整備し、多様な種目・ニーズに対応しています。

(5) 施設の老朽化

本市では公共施設等の数が極めて多く、全体の約3割が概ね築40年以上経過した旧耐震基準に該当する建物となっており、人口減少や少子高齢化が進む中で、施設の老朽化や大量更新時期の到来など本市の公共施設を取り巻く現状は深刻さを増しています。

公共スポーツ施設も同様であり、現存する全ての施設を従来どおりに維持し続けることが困難であることから、市民・利用者の安全性の確保、施設の質・量の最適化、持続可能で暮らしやすいまちづくりを実現するために、生きた計画として策定された、市公共施設等総合管理計画の個別施設計画に従って、施設の集約化、複合化、改築等を検討することが重要となっています。

(6) スポーツによる地域活性化

スポーツツーリズムは、自然の多様性や環境を活用しつつ、国内外の観光旅行の需要の喚起と旅行消費の拡大をもたらし、地方公共団体・スポーツ団体・民間企業（観光産業・スポーツ産業）等が一体となり取り組むことにより、地域活性化につながります。

また、スポーツは、健康・観光・ファッション・文化芸術のみならず、ICT等との融合による新たな市場の創出、経済価値を生むポテンシャルが高く、政府の成長戦略におけるスポーツの成長産業化の位置付けや、各種大規模国際大会の開催を背景に、スポーツを有望産業と捉え、プロスポーツリーグの活性化やスタジアム・アリーナへの投資、健康・体力づくり志向の産業拡大などに向けた関心が高まっています。

スポーツツーリズムやスポーツ関連産業の振興による効果を、まちづくりやスポーツ環境の充実に還元し、さらにスポーツ人口の拡大へとつなげるスポーツによるまちづくりの好循環を生み出していくことが重要となっています。

(7) いわきFCの誕生、日本パラサイクリング連盟の活動拠点の本市への移転

本市には、Jリーグ百年構想クラブであるプロサッカーチーム「いわきFC」があり、ホームゲームなどでトップレベルの試合を身近に観戦できます。

いわきFCのU-18・U-15・Girls U-15には、本市の児童生徒たちが所属して活躍しているほか、地元プロチームであるいわきFCは、スポーツの成長産業化や人材育成、スポーツ普及等の社会貢献活動にも取り組んでいます。

また、2019年には、一般社団法人日本パラサイクリング連盟の活動拠点（事務局）が本市へ移転しました。

一般社団法人日本パラサイクリング連盟は、パラサイクリングの普及・指導・研究、国内・国際大会や合宿の開催といった連盟本来の事業に加えて、本市における障がい者スポーツの普及やスポーツによる市民の健康増進や交流にも取り組んでいます。

これらの団体の存在は、本市におけるスポーツの振興やスポーツによるまちづくりに大きく貢献しています。

(8) 東京2020大会とRWC2019の大会レガシー（遺産）の継承

本市では、「ラグビーワールドカップ2019日本大会（RWC2019）」に出場したサモア独立国ラグビー代表チームが事前キャンプを実施し、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）」においても、サモア独立国を相手国としたホストタウンに登録され、本市での事前キャンプの実施が予定されていました。（※東京2020大会における事前合宿は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりました。）

東京2020大会とRWC2019を契機に、スポーツや文化を通じた次世代の人財育成、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域ブランディングを進め、大会のレガシーとして継承していくことが求められています。

(9) 新型コロナウイルス感染症に伴うスポーツ活動の変化

令和2年に入り、世界的な規模で新型コロナウイルス感染症の感染拡大が急激に進み、東京2020大会をはじめ、さまざまなスポーツの競技大会やイベントの延期や中止、規模の縮小や観客の制限などの影響を与え、スポーツに親しむ機会が減少しました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等、感染症対策のガイドラインの策定など様々な創意工夫により、スポーツ活動を再開・継続する努力が続けられ、令和5年からは、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における本格的なスポーツ活動が再開されました。

2 市民スポーツ活動の現状

2-1 成人の運動・スポーツ実施状況

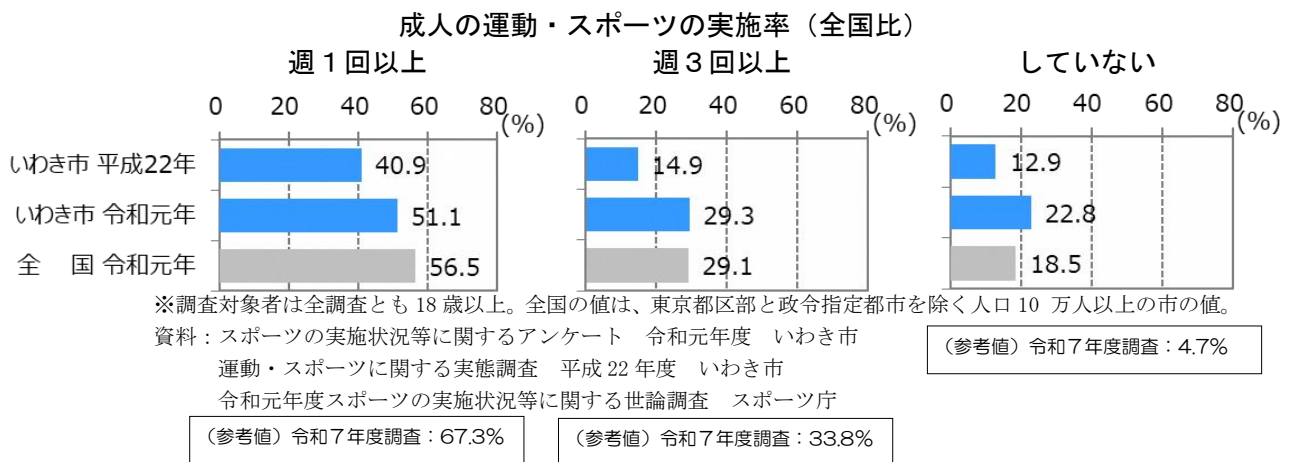
(1) 運動・スポーツ実施率

令和元年度に実施したアンケートにおけるこの1年間において週1回以上運動・スポーツを実施している本市の成人の割合は51.1%であり、9年前の平成22年度時点の40.9%から10.2ポイント上昇していますが、全国値の56.5%を下回っています。

週3回以上運動・スポーツを実施している成人の割合は令和元年度時点で29.3%であり、平成22年度時点の14.9%から14.4ポイント上昇し、全国値の29.1%を上回っています。

一方、運動・スポーツをしていない成人の割合は、令和元年度時点で22.8%であり、平成22年度時点の12.9%から9.9ポイント増加し、令和元年度の全国値の18.5%を上回っています。

このように、成人のスポーツ実施率は、この10年間で、頻度高く実施している人と全く実施しない人の二極化が進んでいます。

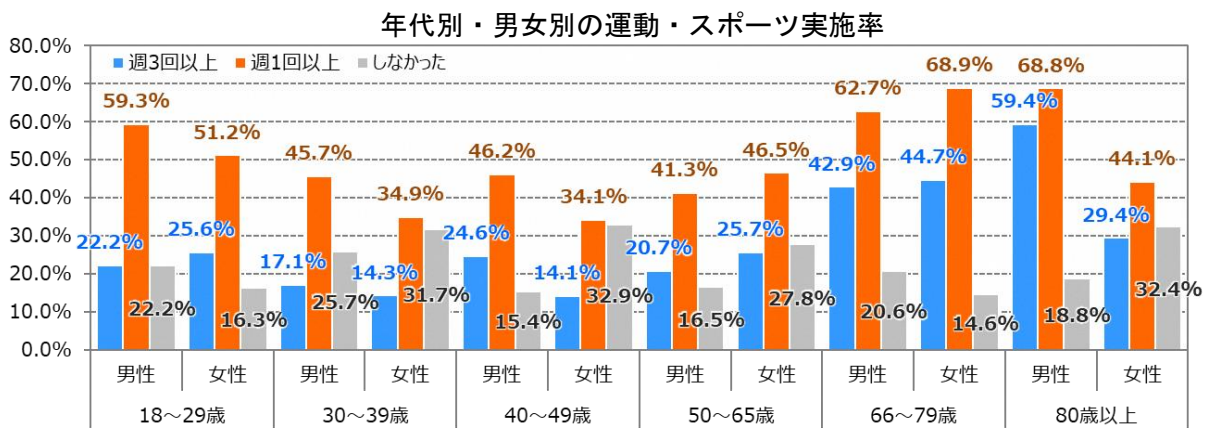


(2) 年代別・男女別の運動・スポーツ実施率

令和元年度に実施したアンケートにおける年代別・男女別をみると、30歳から49歳までの女性の実施率が低いことが目立ちます。

18歳から29歳では一定の実施率が見られますが、65歳までの実施率が全体的に低く、中でも、働き盛りであったり、子育て期間であったり、さらに仕事と子育てを両立していると考えられる30歳から49歳の実施率が特に低い状況です。

一方、66歳以上の実施率は高く、特に、週3回以上の運動・スポーツの実施率は高く、他の世代の2倍ほどとなっています。



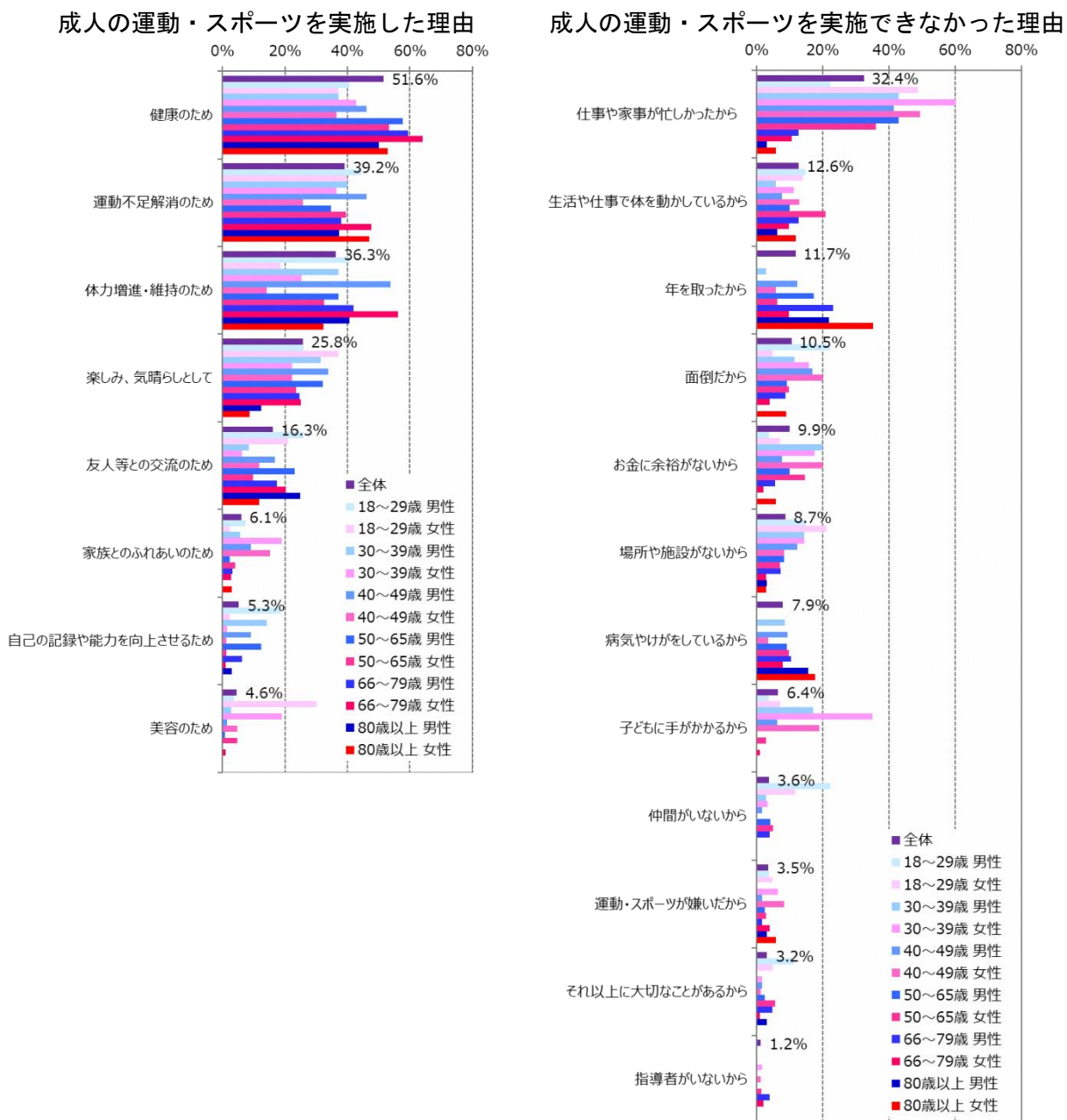
(3) 運動・スポーツを実施した理由・しなかった理由

令和元年度に実施したアンケートでは、スポーツを実施した理由については、「健康のため」・「運動不足解消のため」・「体力増進・維持のため」といった健康や体力のためという回答が上位を占めます。

年代別・男女別に見ると、「健康のため」など健康や体力のためという回答は中高年世代での回答が多く、「楽しみ、気晴らしとして」は若い世代で多く、若い世代の女性では「美容のため」という回答も多く見受けられます。

週に1日以上スポーツを実施できなかった理由は、「仕事や家事が忙しかったから」の32.4%が群を抜いて高い状況です。

年代別・男女別に見ると、「仕事や家事が忙しかったから」という回答のうち就業世代(65歳まで)での回答が多く、比較的、子育て世代の女性では「子どもに手がかかるから」という回答が多く、若い世代では「場所や施設がないから」「仲間がいないから」という回答が多い状況が見受けられます。



(4) 実施した運動・スポーツの種類・種目

令和元年度に実施したアンケートでは、1年間に行った運動・スポーツの種類・種目は多い順（複数回答）に、「ウォーキング」46.2%、「ゴルフ」12.3%、「体操」12.1%、「マラソン・ランニング」10.7%、「ジム」9.4%となっています。

全国の状況と比較すると、本市では、「野球・ソフトボール」・「バドミントン」・「バレーボール」・「ビーチバレーボール」・「ダンス」の実施率が高く、「ウォーキング」・「マラソン・ランニング」・「ジム」・「水泳」・「自転車・サイクリング」など、健康づくりを目的にすることや、個人で実施することが多いと考えられる種類・種目の実施率に低い傾向が見受けられます。

特に、全国値との差が大きな種類・種目として、本市の「ウォーキング」と「自転車・サイクリング」の実施率は低い状況ですが、全国値が近年急増していることが影響していると考えられます。（平成28年度の全国値：ウォーキング41.5%、自転車・サイクリング8.9%）

成人が実施した運動・スポーツの種類・種目（複数回答）

本市上位種類・種目			全国値
1	ウォーキング	46.2%	64.8%
2	ゴルフ	12.3%	16.2%
3	体操	12.1%	15.0%
4	マラソン・ランニング	10.7%	14.1%
5	ジム	9.4%	14.7%
6	ヨガ	7.4%	7.8%
7	野球・ソフトボール	6.3%	4.4%
8	バドミントン	5.3%	3.2%
9	バレーボール・ビーチバレーボール	5.0%	2.2%
10	ダンス	4.2%	2.5%
11	登山、ハイキング	4.0%	4.7%
12	サッカー・フットサル	3.6%	4.7%
13	水泳	3.3%	6.1%
14	自転車・サイクリング	2.7%	14.3%
15	卓球	2.3%	3.7%

※全国値は、東京都区部、政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。

※黄色枠は、全国値に比べて本市での実施率が高い種類・種目

※調査対象者は、両調査とも18歳以上

資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁

2-2 子どもの体力とスポーツ実施状況

(1) 体力と体格

わが国の小・中学生の体力は、近年緩やかに向上していますが、水準が高かった昭和60年頃と比較し、依然として低い水準に止まっています。

令和6年度の「新体力テスト」の結果によると、本市の小・中学生の体力は男女とも、全国平均値、福島県平均値を下回っており、中学生では全国平均値、福島県平均値との差が大きくなっています。

本市の小・中学生の肥満者割合は、男女とも全ての学年で全国値を上回っており、ほぼ全ての学年で福島県の肥満者割合も上回っています。

全国値に比べて小学5年生で男子は1.5倍、女子は小学2年生で1.7倍となっており、幼少期からの運動の実施状況や食生活などが影響しているものと考えられます。

男女別学年別小・中学生の「新体力テスト」の総合得点平均値の推移

【男子小学生】



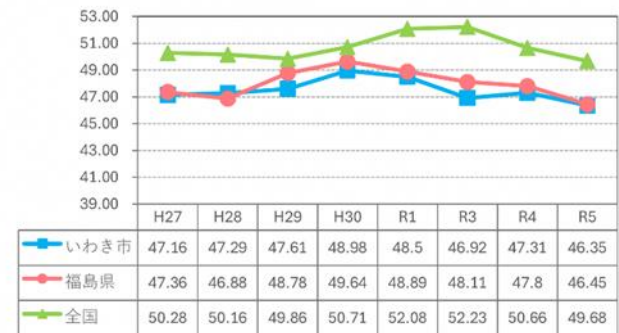
【女子小学生】



【男子中学生】



【女子中学生】



資料：各年度学校保健統計調査体力・運動能力調査 いわき市

男女別学年別小・中学生の肥満者割合（令和6年度）



資料：令和6年度学校保健統計調査体力・運動能力調査 いわき市

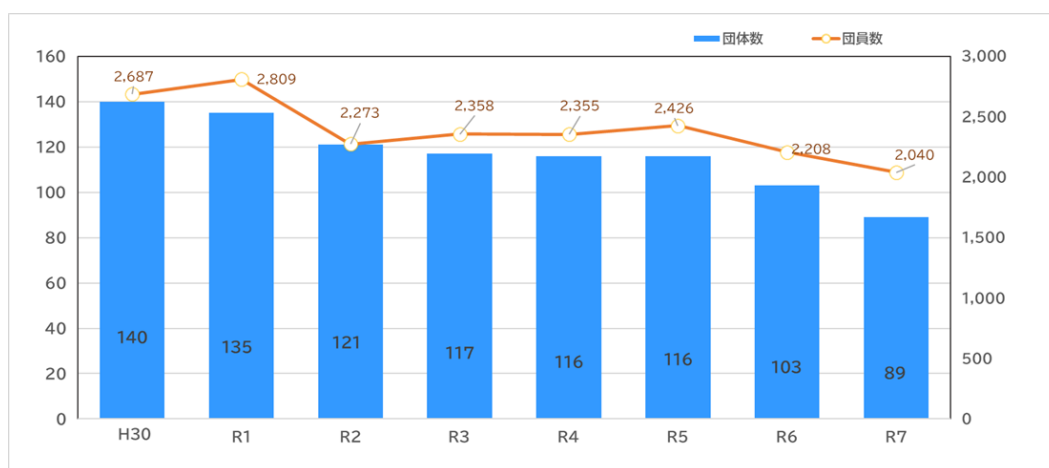
(2) スポーツ実施状況

スポーツ少年団の団体数は、平成 24 年度の 172 団体から令和元年度には 135 団体に、さらに令和7年度には 89 団体と 13 年間で 48.2%減少し、さらに団員数も 13 年間で 3,284 人から 2,040 人と 37.9%減少しています。

中学校の運動部の部員数は、平成 27 年度の 7,642 人から令和元年度には 6,634 人に、令和6年度には 5,624 人と、9年間で 26.4%減少しています。

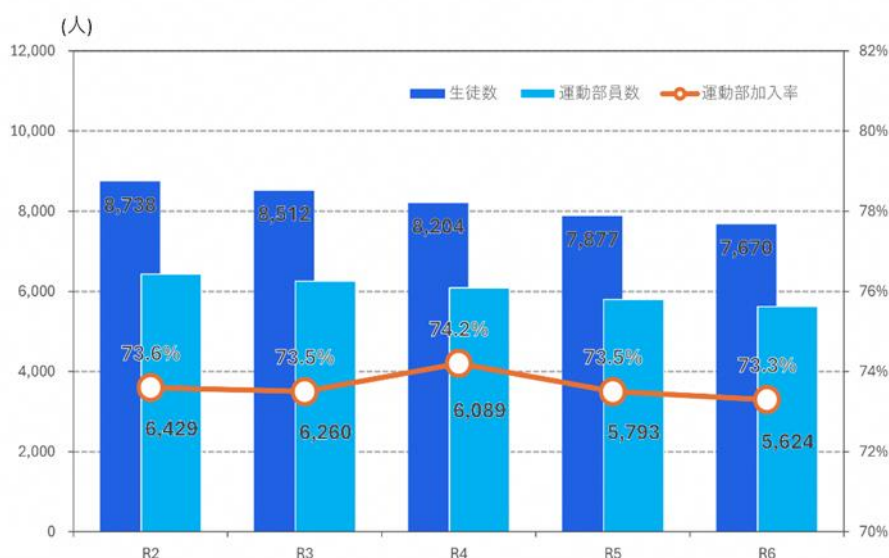
中学校の運動部の入部率（部員数/生徒数）は、平成 27 年度の 77.7%から令和2年には 73.6%に低下し、それ以降はほぼ横ばいの状態となっております。

スポーツ少年団の団体数と団員数の推移



資料：いわき市

中学校の運動部活動部員数と入部率



資料：いわき市

2-3 高齢者のスポーツ実施状況

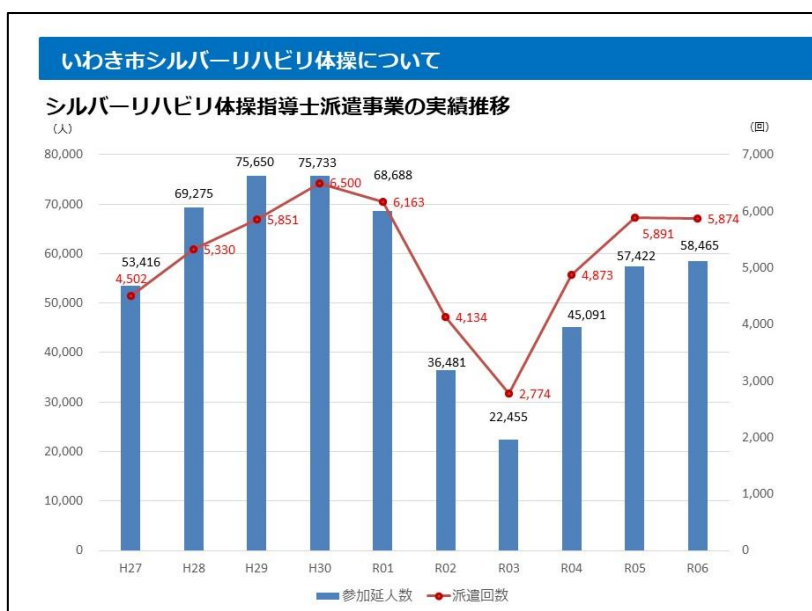
「2-1 成人の運動・スポーツ実施状況」で示していますが、66歳以上の運動・スポーツ実施率はそれ以外の成人と比べて高く、特に、週3回以上の運動・スポーツの実施率は高く、他の世代の2倍ほどとなっています。

本市では、身近な地域で気軽に介護予防活動に参加できる地域づくりを目的に「いわき市シルバーリハビリ体操」を実施しています。

シルバーリハビリ体操は、市民ボランティアである体操指導士（養成講座の受講が必要）の指導により、平成21年度から住民参加型介護予防事業として実施しています。

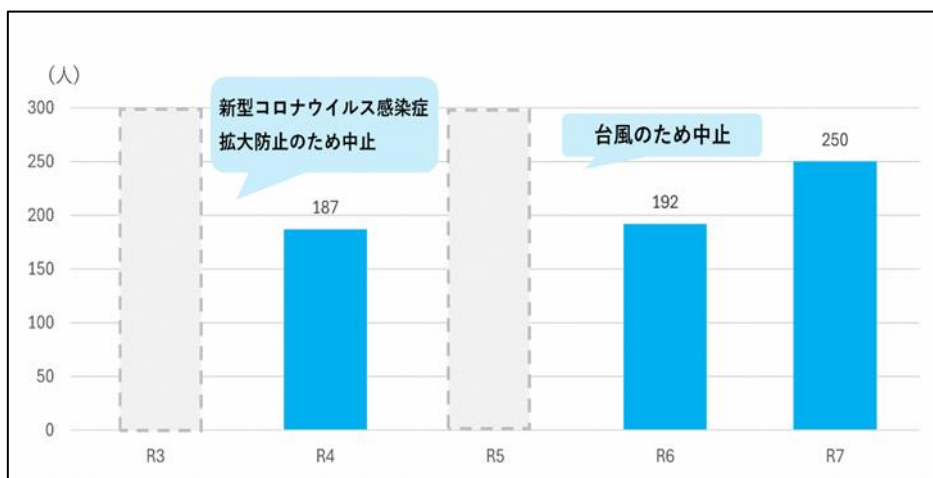
また、高齢者がスポーツを通じて健康増進を図るとともに、相互の親睦交流を深めるため、いわき市老人クラブ連合会が主催する、高齢者スポーツ大会「シルバーピアード」への補助なども行っています。

シルバーリハビリ体操への参加人数の推移



資料：いわき市

シルバーピアードの参加人数の推移



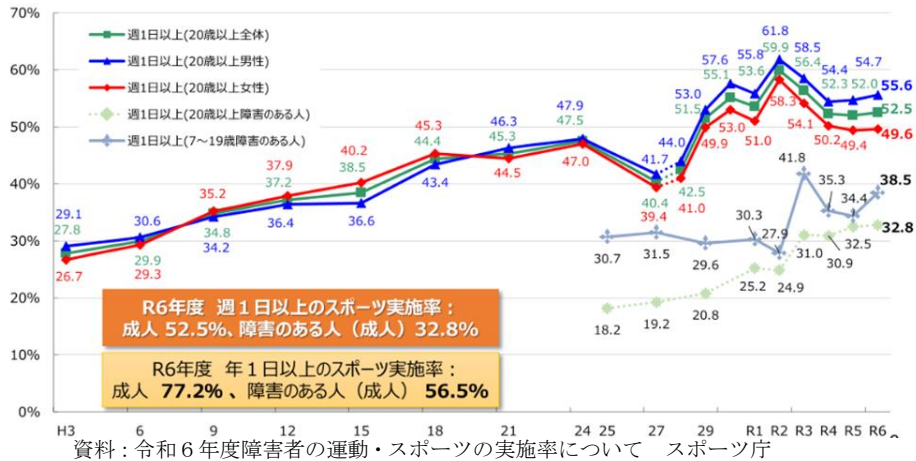
資料：いわき市

2-4 障がい者の運動・スポーツ実施状況

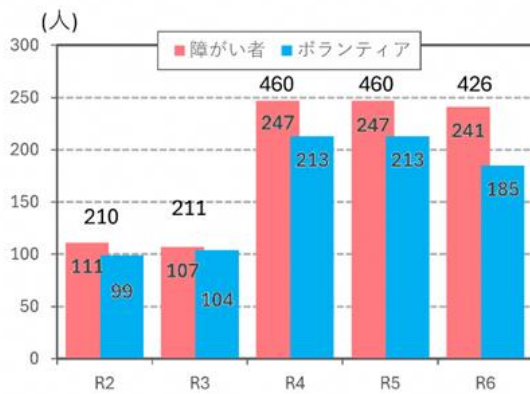
令和6年度の全国の障がい者(成人)の週1回以上のスポーツ実施率は32.8%にとどまっており、一般成人に比べて低く、スポーツを行っていない人は43.5%となっております。

本市においては、障がい者の余暇活動の充実や健康増進及びスポーツを通じてのネットワークづくりを目的とした「サンアビススポーツ塾」や、各種レクリエーションを通して障がい者とボランティアの交流による相互理解を深め、障がい者の余暇活動の充実を図ることを目的とした「わいわい塾」、障がいの有無に関わらず様々なパラリンピック競技及び障がい者スポーツ(パラスポーツ)種目を体験する「パラスポーツ体験教室」などを実施しています。

障がい者のスポーツ実施率(全国)

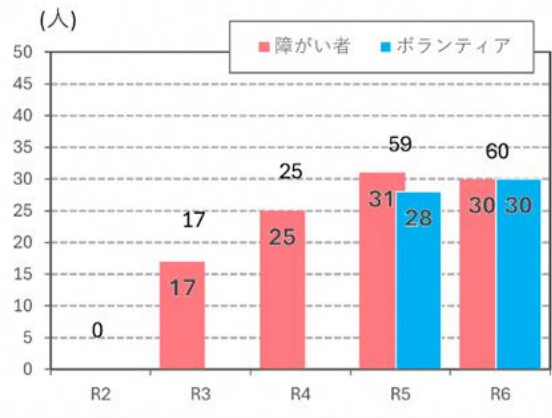


サンアビススポーツ塾の参加者の推移



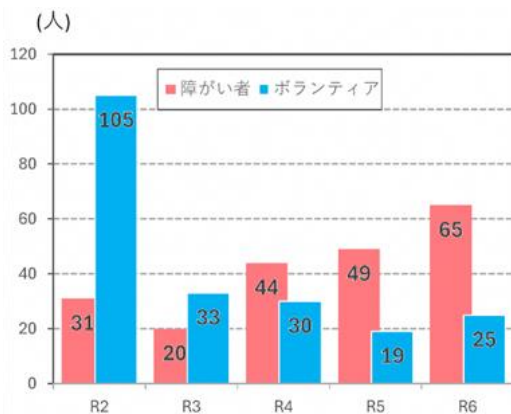
資料：いわき市

わいわい塾の参加者の推移



資料：いわき市

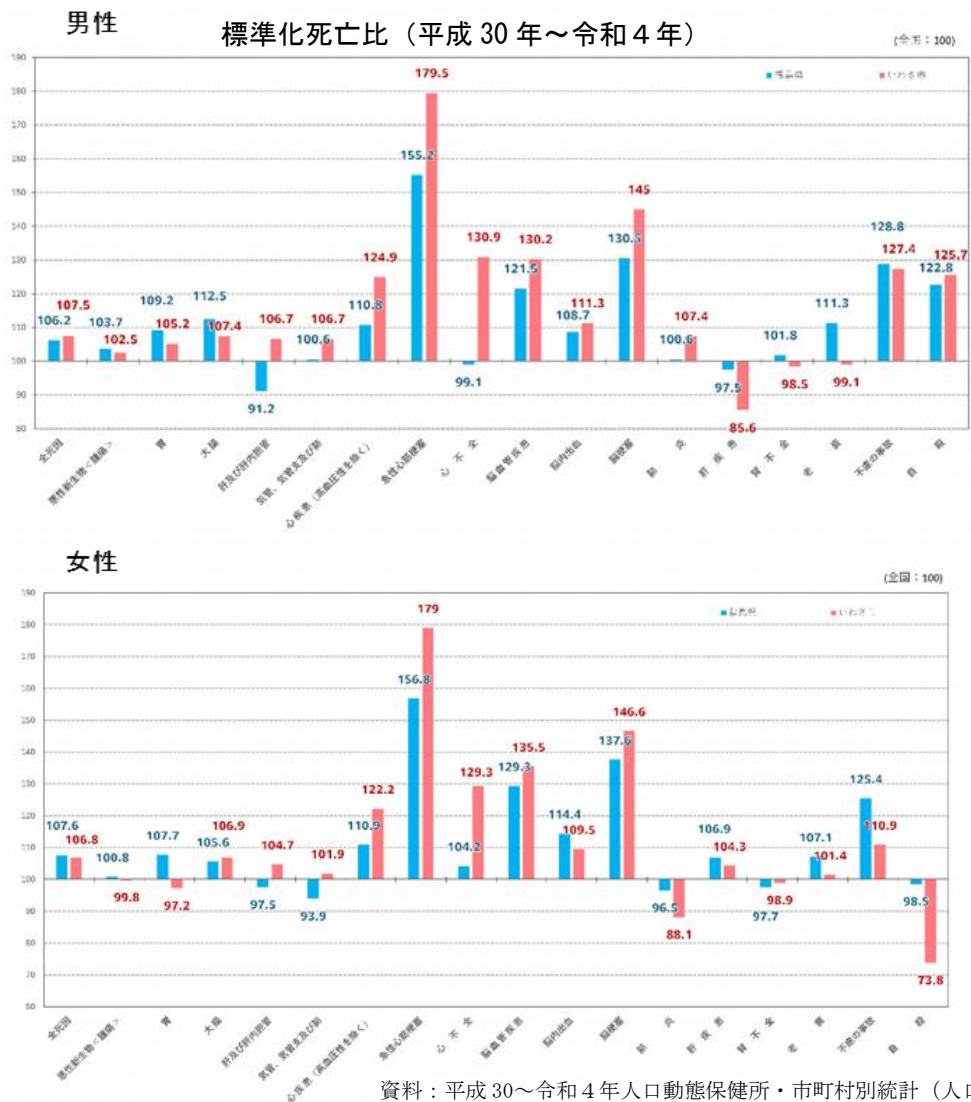
パラスポーツ体験教室の参加者数



資料：いわき市

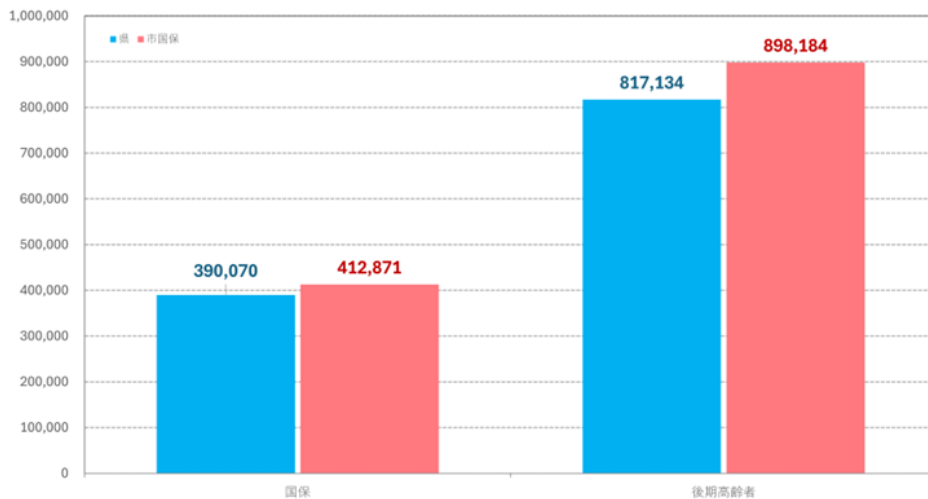
2-5 市民の健康状態

本市は、心疾患や脳血管疾患などの生活習慣病で死亡する市民の割合が全国平均より高い状況です。また、国民健康保険、後期高齢者医療保険 1 人あたりの医療費は、県平均を上回っています。



資料：平成 30～令和 4 年人口動態保健所・市町村別統計（人口動態統計特殊報告）

市国民健康保険・後期高齢者医療保険 1 人あたり医療費（令和 4 年度）



資料：令和 4 年度国民健康保険事業状況（福島県）、令和 4 年度後期高齢者医療保険概況 福島県後期高齢者医療広域連合

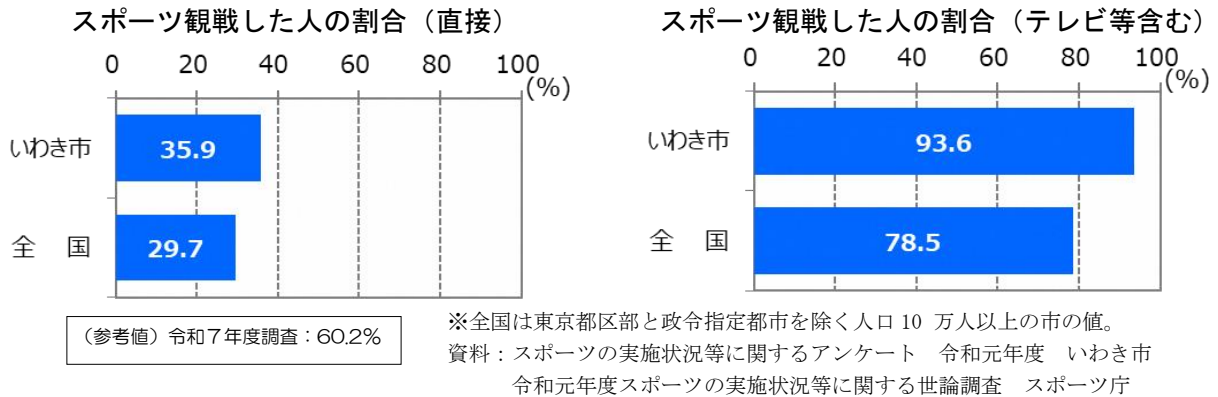
2-6 スポーツ観戦の状況

令和元年度に実施したアンケートでは、スポーツを1年で1回でも直接観戦した人の割合は、本市は35.9%であり、全国の29.7%を上回っています。

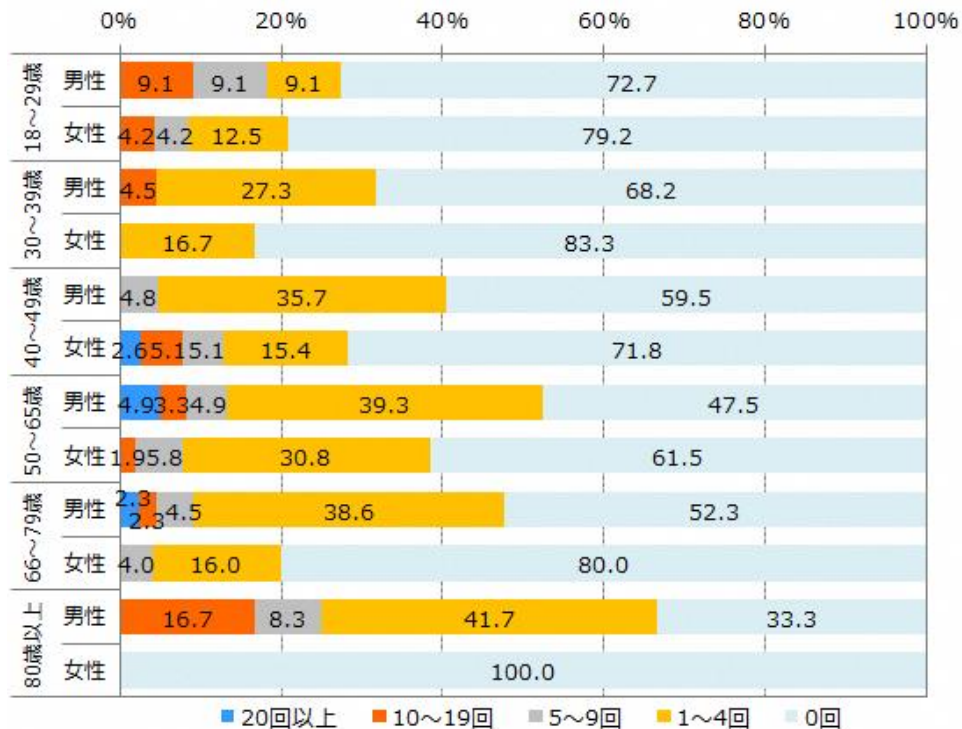
テレビやインターネットを含めた場合の割合は、本市は93.6%であり、全国の78.5%を上回っています。

このように、本市の市民は比較的「みる」スポーツへの関心は高いと考えられます。

世代別男女別に直接観戦した人の割合をみると、女性に比べて男性の割合が高く、男性の中でも高齢になるほど観戦した回数の多い人の割合が高くなっています。



世代別男女別スポーツ観戦回数（直接）



資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

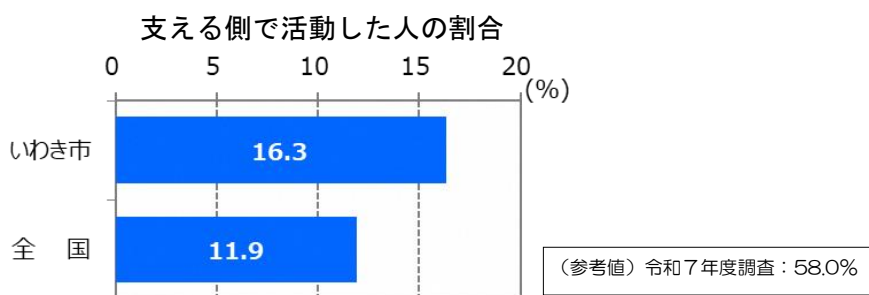
2-7 スポーツを支える活動の状況

令和元年度に実施したアンケートでは、過去に、スポーツボランティアや指導者などで、スポーツを支える活動をしたことがある市民の割合は16.3%となっています。

なお、全国における1年間にスポーツを支える活動をした人の割合は11.9%です。

世代別には、若い世代でスポーツボランティアとして活動した人の割合において低い傾向が見受けられます。

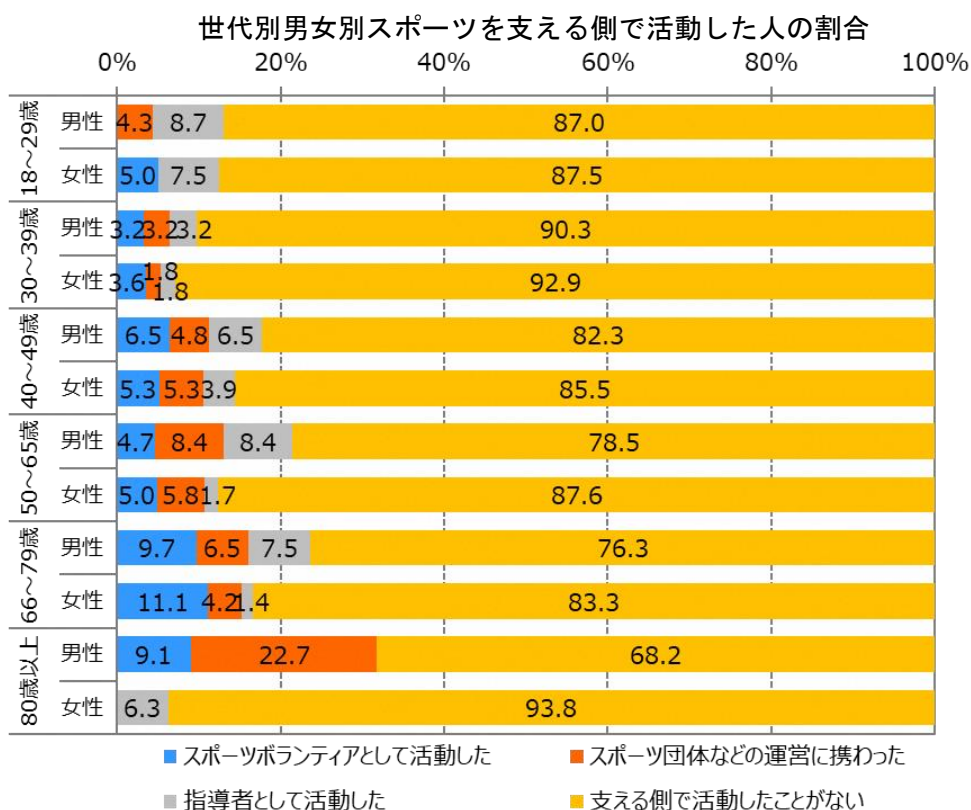
男女別には、スポーツを支える側での活動のうち、スポーツボランティアとしての活動した人の割合は女性がやや高く、スポーツ団体などの運営に携わった人や指導者としての活動した人の割合は男性がやや高い傾向が見受けられます。



※本市は過去の経験、全国はこの1年間の経験

※全国は東京都区部と政令指定都市を除く人口10万人以上の市の値。

資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市
令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査 スポーツ庁



資料：スポーツの実施状況等に関するアンケート 令和元年度 いわき市

3 スポーツ関係団体・事業者の現状

3-1 スポーツ関係団体の概要

本市のスポーツ団体には、いわき市スポーツ協会（各地区体育協会・各競技種目団体などの組織）・いわき市スポーツ推進委員会・いわき市スポーツ少年団本部・いわき地区高等学校体育連盟・いわき市中学校体育連盟・5つの総合型地域スポーツクラブなどがあり、福島県の関係団体とも連携して、本市のスポーツの普及、振興及び競技力の向上並びに市民の体力及び健康の増進を図るため、競技スポーツから生涯スポーツにわたり、スポーツ大会やスポーツ教室等の開催やスポーツの指導・助言など、地域に密着した活動を行っています。

多くの団体では、人口減少や高齢化の中、指導者の総数や専門的な知識を持った指導者が不足しており、団体役員や指導者の高齢化も進んでいます。

また、上記のほかには本市特有のスポーツ関係団体・事業者としては、令和元年度に本市に事務局を移転してきた「日本パラサイクリング連盟」、スポーツや健康の学術研究機関である「東日本国際大学」と「医療創生大学」、本市唯一のプロスポーツチームである「いわきFC」があり、各団体等と連携したスポーツ振興やまちづくりに取り組んでいます。

一般社団法人日本パラサイクリング連盟（JPCF） 概要

法人名	一般社団法人日本パラサイクリング連盟（JPCF）
設立	2012年4月5日（日本障害者自転車協会より移行）
事務局所在地	いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前1-1いわきFCパーク（2019年5月伊豆の国市から移転）
事業	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車競技及びサイクリングの普及、指導、研究 ○パラリンピックをはじめとする国際大会への代表選手を選考、派遣 ○自転車競技の国内、国際大会、合宿の開催 ○自転車競技の競技力の向上 ○自転車を活用した健康づくり事業、各種イベントの開催
いわき市関連の主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ○いわき市及び株式会社いわきスポーツクラブと「スポーツを通じた共生のまちづくりに関する連携協定」を締結 ○障がい者スポーツの普及を通じた共生社会の促進 ○スポーツを通じた市民等の健康増進 ○スポーツ交流の推進 ○IWAKI DREAM CHALLENGE 参加 ○ツール・ド・いわき参加

出展：一般社団法人日本パラサイクリング連盟

いわき市の大学のスポーツ関連学部・学科

東日本国際大学	健康福祉学部スポーツ健康コース 健康とスポーツに関する高度な知識を幅広く学ぶ。スポーツを通して基礎的なコミュニケーションスキルや自己規律を身につける科目のほか、人間洞察力・対人援助スキルを高めることにつながる科目で構成。
医療創生大学	健康医療科学部作業療法学科・理学療法学科

資料：各大学HP

3-2 いわきFCの概況

本市には、Jリーグ百年構想クラブであるプロサッカーチーム「いわきFC」があり、市民が身近にプロスポーツを観戦でき、U-18・U-15・Girls U-15には本市の児童・生徒たちが所属して活躍しています。

「いわきFC」を運営する「株式会社いわきスポーツクラブ」は、「スポーツを通じて社会を豊かにする」という理念のもと、競技としてのスポーツに留まらずスポーツの成長産業化や人財育成などにも積極的に取り組んでおり、高校生以上を対象としたトレーニング教室や小学生以下の子どもを対象としたスポーツ教室の実施など、幅広い年齢層へのスポーツ普及等の社会貢献活動に取り組んでいます。

2017年には、市やいわき商工会議所など70団体とともに、「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」（現在74団体）を設立し、「東北一の都市いわき」の実現を目指して、市民の健康増進やスポーツ人財育成、観光振興、いわきFC選手と地域との交流、ホームチームの機運醸成に取り組んでいます。

株式会社いわきスポーツクラブ 概要

社名	株式会社いわきスポーツクラブ
本社所在地	いわき市常磐上湯長谷町釜ノ前 1-1
設立	2015年12月11日
沿革	2016年 福島県社会人サッカー1部リーグ昇格 2017年 東北社会人サッカー2部南リーグ昇格、いわきFCパークオープン 2018年 東北社会人サッカー1部リーグ昇格、いわきFCクラブハウスオープン 2019年 日本フットボールリーグ（JFL）昇格、いわきFCクリニック・ステーションオープン 2020年 百年構想クラブ認定 2021年 JFL優勝、Jリーグ（J3）昇格 2022年 公式マスコットキャラクター「ハーマー&ドリー」誕生、J3優勝、J2昇格
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> サッカークラブ運営事業（いわきFC） スポーツ教室運営事業 スポーツ施設運営事業 スポーツに関するライセンスグッズ、コンテンツ販売事業
いわきFC 在籍者数 (R7.10)	トップチーム 32名 U18 41名 U15 56名 GirlsU15 16名
提携等	2017年 「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」設立 2019年 いわき市、日本パラサイクリング連盟と「スポーツを通じた共生のまちづくりに関する連携協定締結」 いわきサッカー協会と「サッカーを通じた人財育成に関する連携協定」締結 2022年 ホームタウン各市町村と地域創生に関するパートナーシップ協定締結 2023年 常磐興産株式会社と「いわきワクワクプロジェクト」包括連携協定締結

資料：いわきFCホームページ

いわきFCの地域と連携した取組み

取組み	概要
稼げるまちづくり	「いわきFCパーク」の機能強化を図り、域内外から大会・合宿需要を取り込むスポーツとメディカルが一体となったオンリーワンのモデルケースを構築。 <ul style="list-style-type: none"> 合宿チーム向けアスリートステーションの整備 スポーツクリニックの整備 スポーツコミッション機能の強化
人財育成・ヘルスケア	スポーツを通じた人財育成 いわきスポーツアスレチックアカデミー、地域の次世代を担う子ども達の人財育成を、いわきスポーツクラブが無償で実施。
地域ブランディング	ホームチームの機運醸成 いわき駅・湯本駅への看板設置や、「いわきFC応援デー」として市職員がユニフォーム等を着用して業務を行うことで、チームや試合への注目度を高める。 いわきFCと連携したシティセールスの推進 フラシティーいわきホームタウンデーとして、来場者特典やハーフタイムでのフラ披露によるPR。
スマートライフ	スポーツによるスマートライフ推進 スポーツとIoTを活用した、オンラインによる正しい運動・正しい食事・正しい睡眠を意識した健康増進プログラムを構築する。

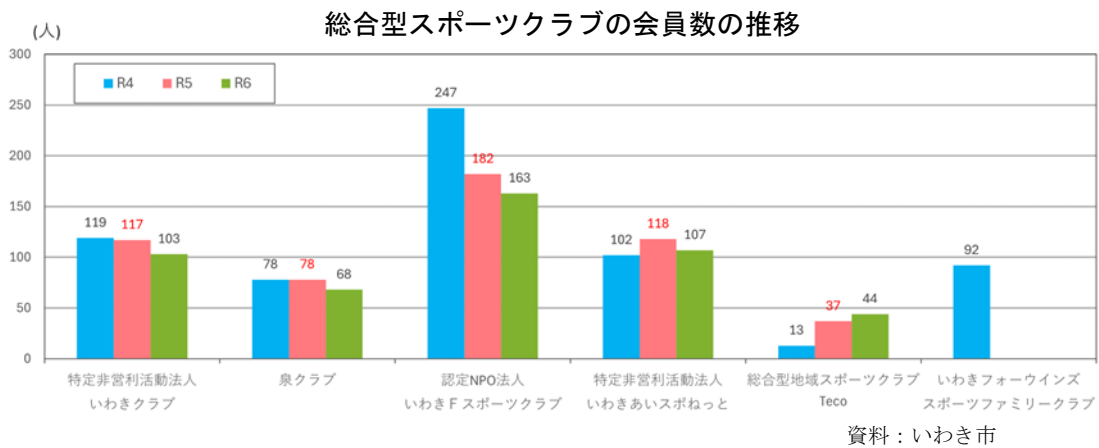
資料：いわき市

3-3 総合型地域スポーツクラブの現状

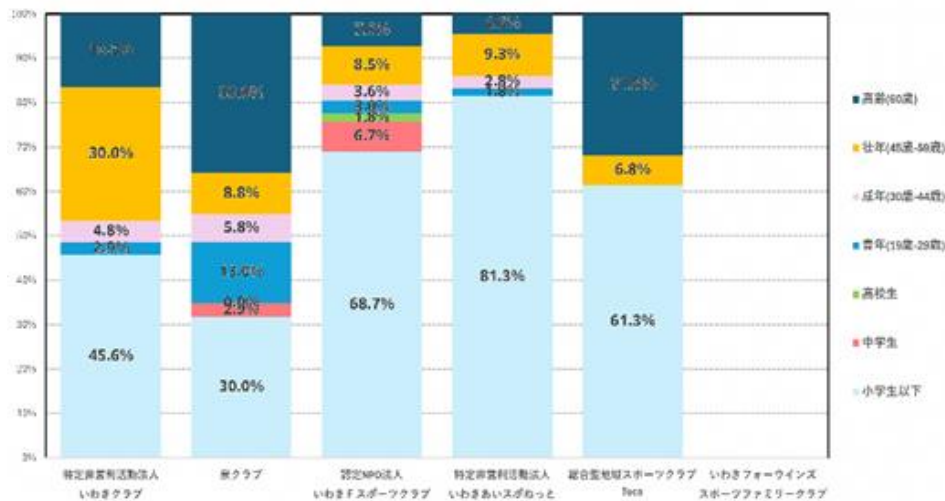
本市では、生涯スポーツの振興を図るうえで重要な役割を果たす総合型地域スポーツクラブが、平成14年度以降、7団体設立され、NPO法人化により運営体制を強化し活動している団体もあります。（平成30年度1団体解散、令和4年度1団体解散）

会員数の推移は団体によって異なりますが、5団体の総会員数は、平成29年度は876人でしたが令和元年度は817人に、令和6年度には485人にまで減少しています。

総合型地域スポーツクラブは、多様目・多世代・多志向のスポーツを地域住民の自主的・主体的な運営で行うことを基本とする団体となっていて、本市の各クラブの世代別会員数をみると小学生以下の会員がほとんどを占める団体が多い状況となっています。



総合型スポーツクラブの会員の年齢層（令和6年）



4 スポーツ施設の現状・利用実態

本市の主要なスポーツ施設は 55 施設あり、広い市域に点在しています。

各地区に一定の整備水準のスポーツ施設が立地していますが、規模の大きいスポーツ施設は、平地区などの市街地に集中しています。

このため、施設利用の利便性が低い地区が存在するとともに、マイカー移動に依存しているため駐車スペースが不足している施設がみられます。

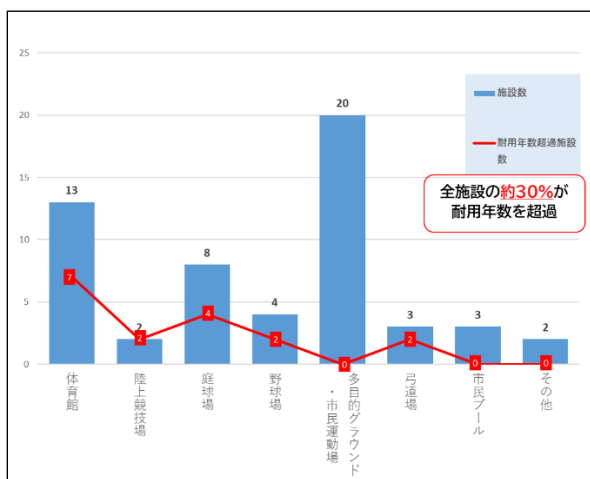
スポーツの実施状況等に関するアンケートによると、市民がスポーツの普及・振興において市に望むものとしては、利便性や安全性の確保、空調設備や音響設備なども含めて、「施設・設備の充実」が 45.7% で最も多い状況です。

耐震化など既存施設の改修に取り組んでいますが、多くのスポーツ施設は建設後 30 年以上経過し、約 30% が耐用年数を超過している状況にあり、維持管理・更新費用も増加しています。

また、施設のバリアフリー化につきましては、令和 2 年度時点で、スロープがある施設が 45.0%、多目的トイレがある施設が 51.7%、障がい者用駐車場がある施設が 56.7% であったのが、令和 7 年度はスロープがある施設が 47.3%、多目的トイレがある施設が 58.2%、障がい者用駐車場がある施設が 60% とバリアフリー化が進んでおります。

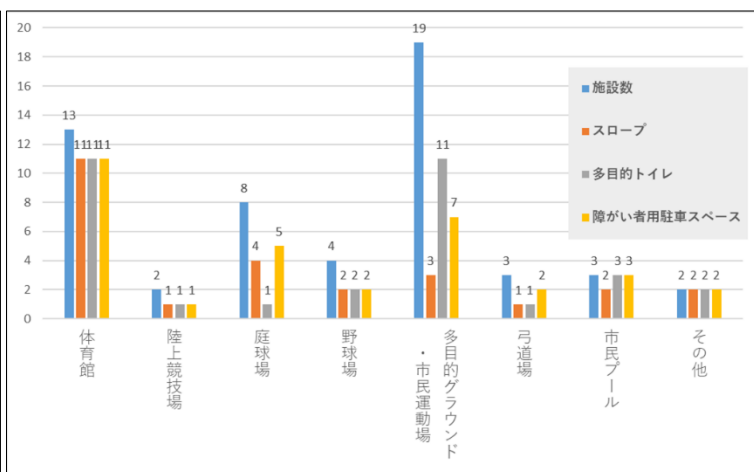
平成 28 年度には、宿泊施設「新舞子ハイツ」に多目的運動場を併設して「いわき新舞子ヴィレッジ」を、平成 29 年度には、災害時の救援物資の集積・分配機能を担う拠点施設であり、平常時には人工芝張りの屋内運動場として利用できる「いわきグリーンベース」を、令和 2 年度には、防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用したサイクリングルート「いわき七浜海道」とサイクルステーション（市内 9 箇所）、21 世紀の森公園内に福島県内では最大級のスケートボード広場を整備するなど、新たなスポーツ施設の整備や災害時の拠点施設としての設備の充実にも取り組んでいます。

スポーツ施設の耐用年数超過施設数



資料：いわき市

スポーツ施設のバリアフリー化の状況



資料：いわき市

4-2 スポーツ施設の利用実態

市内の主要なスポーツ施設の利用件数と利用者数は、開催される大会によって毎年変動があること、さらには、スポーツ施設の減少があり単純に比較はできないものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、スポーツ活動に制限のあった令和2年以降、全体の利用件数は、平成28年度と比較し48.6%、利用人数は23.1%減少しています。

施設区分別には、体育館及び野球場、多目的グラウンド・市民運動場は、利用件数は増加またはほぼ同数ですが、利用人数は減少しています。

市民プールは、令和元年度に小名浜市民プールの閉鎖の影響もあって、令和元年度以降、利用件数、利用人数ともに大きく減少しています。

その他の施設については、令和2年度に「スケートボード広場」が開設されたこともあり、利用件数が51.2%増加しました。

多くのスポーツ施設において、利用件数よりも利用人数の減少が大きいことが分かります。

スポーツ施設の施設区分別の利用件数・利用人数の推移

施設区分	集計区分	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	増加率 (R6/H28)
体育館	団体利用件数	16,732	16,648	14,415	14,907	14,571	13,511	16,273	16,955	17,747	106.1%
	団体・個人利用人数	431,975	433,537	349,543	329,618	265,929	242,521	333,430	363,352	374,175	86.6%
陸上競技場	団体利用件数	229	242	214	180	131	183	280	221	204	89.1%
	団体・個人利用人数	90,751	82,612	85,698	72,345	34,144	55,860	74,038	117,925	67,421	74.3%
庭球場	団体利用件数	9,407	9,595	9,334	9,577	8,197	7,416	7,477	7,621	8,313	88.4%
	団体・個人利用人数	129,260	117,841	116,542	116,308	99,163	89,314	99,669	94,717	105,438	81.6%
野球場	団体利用件数	1,060	1,118	1,183	1,172	974	993	1,370	956	1,031	97.3%
	団体・個人利用人数	72,694	77,813	76,264	54,067	29,984	33,949	43,549	45,441	49,176	67.6%
多目的グラウンド・市民運動場	団体利用件数	6,222	6,985	7,132	6,704	6,365	5,870	5,684	5,693	6,200	99.6%
	団体・個人利用人数	316,503	356,305	353,931	306,101	231,239	238,134	217,395	246,346	275,541	87.1%
弓道場	団体利用件数	84	96	87	57	46	158	72	59	58	69.0%
	団体・個人利用人数	26,118	26,193	27,183	19,705	15,455	22,162	24,349	23,656	27,736	106.2%
市民プール	団体利用件数	310,019	330,017	332,620	297,543	189,788	135,065	129,545	119,206	142,810	46.1%
	団体・個人利用人数	439,790	455,852	470,554	425,856	281,005	237,274	237,820	238,278	259,407	59.0%
その他	団体利用件数	408	476	557	558	2,207	1,257	1,074	750	617	151.2%
	団体・個人利用人数	5,013	4,902	5,022	4,615	3,663	2,303	3,573	3,790	3,853	76.9%
合計	団体利用件数	344,161	365,177	365,542	330,698	222,279	164,453	161,775	151,461	176,980	51.4%
	団体・個人利用人数	1,512,104	1,555,055	1,484,737	1,328,615	960,582	921,517	1,033,823	1,133,505	1,162,747	76.9%

資料：いわき市

5 スポーツ大会・イベントの現状

本市では、市民参加型から全国・世界規模まで、年間を通して様々なスポーツ大会・イベントが開催されてきました。

近年では、参加者の評価が年々高まり日本を代表する市民マラソンのひとつに成長した「いわきサンシャインマラソン」をはじめ、いわきFCのホームゲーム、プロ野球やラグビーリーグワンの試合など、全国規模やプロスポーツの大会・イベントが開催されております。

また、平成28年度には「WBSC U-15 ベースボールワールドカップ in いわき」が開催され、令和元年度には、東京2020大会ホストタウンであるサモア独立国のラグビーナショナルチーム（愛称：マヌ・サモア）がRWC2019日本大会に出場する際の事前キャンプを本市で実施するなど、世界規模の大会・イベントも開催されております。

なお、本市には、交流人口の拡大、風評の払拭及び地域経済の活性化を図るとともに、市外からのスポーツ大会や合宿の誘致にあたり、主催者の各種手続きや調整等の負担を軽減し、円滑に実施するための支援等を総合的に行うことを目的とした「いわき市スポーツコミッション」事業により、日本代表クラスやパラスポーツ、高校及び大学など様々な世代で、各競技の合宿などを誘致し、地域に様々な効果をもたらしております。

本市には、現在、宿泊施設（ホテル・旅館営業）が71施設あり、そのうち収容人数が100人を超える宿泊施設が18施設と、大会・イベントや合宿の宿泊が受け入れられる施設が充実しております。



いわきサンシャインマラソン

6 現状から見た課題

(1) 生涯にわたってスポーツに取り組むために

生涯にわたってスポーツに取り組むために、世代ごとの課題を把握し、必要な取り組みについて整理します。

課題① 子どもの健康な体づくり

幼児期から少年期にかけてスポーツの楽しさに触れ、スポーツに慣れ親しむことは、生涯にわたるスポーツ活動の習慣づけをすることにつながり、仲間づくりや体力の向上、心身の健全な発達など多くの効果が期待できます。

本市の子どもは全国と比べて、体力は低い水準であり、肥満者割合は高い状況にあります。

学校における体育の授業や部活動などの体育的活動の充実を図るとともに、保護者や地域に対して、スポーツが子どもの健康と心身の発達に重要なことを発信することで、家庭や地域と連携・協力を図り、スポーツ少年団活動や野外活動事業など、運動・スポーツを楽しむ機会を創出しながら、子どものスポーツ活動を支えていくことが必要です。

課題② 働く世代・子育て世代のスポーツ機会の充実

成人の運動・スポーツの実施率は、全国に比べて低く、働き盛りであったり、子育て期間であったり、さらに仕事と子育てをしていると考えられる30～49歳の実施率が低く、その中でも特に子育て世代の女性の実施率が低い状況です。

この世代は、メタボリックシンドロームなど生活習慣病のリスクの高い世代でもあることから、運動・スポーツの習慣化は重要です。

運動・スポーツをしない理由で最も多い回答は、「仕事や家事が忙しい」ことであり、働き方改革や子育て支援の充実など企業や社会での取り組み、さらには、リモートで運動をしたり、指導を受けるなど、デジタル技術を活用した新たなスポーツの機会やビジネスモデルの創出などDXを推進することで、仕事や家事を行いつつ運動・スポーツに参加しやすい環境と機会の提供、親子で参加可能なスポーツイベントの開催、さらには本人の意識の転換と意欲の醸成を促す働きかけが必要です。

課題③ 高齢者・障がい者のスポーツ推進

高齢者の健康に対する意識は高く、多くの方が健康維持・増進のために運動・スポーツを行っており、仲間づくりを目的にスポーツを行う人も多く、運動・スポーツ活動は仲間との交流や生きがいを得る場にもなり、それは疾病・介護予防や健康寿命の延伸にも効果をもたらします。

一方で、「高齢のため」や「健康がすぐれない」などを理由に運動・スポーツを実施しない傾向が見受けられます。

このため、身近な場所で、年齢や健康状況に応じた運動・スポーツに、無理なく親しめる環境を整えるとともに、高齢者でも行いやすい運動・スポーツなどを普及していくことが必要です。

また、ノーマライゼーションの理念に基づく社会の実現に向けて、障がい者の運動・スポーツにおいても、これまでのリハビリテーション中心の活動から、生涯スポーツや競技スポーツへと、障がい者スポーツは活動の幅は広がりを見せています。

本市では、「サンアビススポーツ塾」や「パラスポーツ体験教室」などを実施して、障がい者のスポーツ参加や障がい者と健常者がともに参加するスポーツの推進に取り組んでいます。

今後は、障がいの種別や程度に合わせたスポーツや、障がい者と健常者がともに楽しむスポーツ、さらにはパラスポーツの普及に、より一層取り組むとともに、施設のバリアフリー化など障がい者がスポーツに参加しやすい環境の充実に取り組むことが必要です。

(2) スポーツ環境を整えるために

誰もが気軽にスポーツができる環境づくりに向けて、スポーツを支える人材の育成や施設の整備・充実、情報発信など、スポーツ環境の整備に向けた取り組みを整理します。

課題① スポーツ指導者の育成・充実

本市の地区体育協会、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団などのスポーツ関係団体では、会員の減少や団体役員・指導者の高齢化、専門的な知識を持った指導者の不足などの問題を抱えています。

一方、本市には、プロスポーツチームである「いわきFC」や「日本パラサイクリング連盟事務局」、スポーツや健康の領域もカバーする「東日本国際大学」と「医療創生大学」があり、各団体等と連携したスポーツ振興やまちづくりに取り組んでいます。

今後は、中学校部活動の地域展開などを想定し、学校体育やスポーツ団体活動の個々の運営体制の見直しや指導者育成、確保に向けた組織相互の連携・協力を進めていくことが必要です。

課題② スポーツ施設・設備の充実

スポーツ施設の中には老朽化している施設や耐震整備未実施の施設があり、維持管理・更新費用が増加する施設も見込まれます。

一方、新たな種目の増加や既存種目のルール・競技方法の変更及び気候変動の顕在化等により、施設や設備に求められる機能は多様化、高度化しているほか、近年の猛暑による屋内体育施設の熱中症対策が必要な状況となってきました。

今後、市公共施設等総合管理計画の個別施設計画を基に、利用者が安全・安心に施設を利用することができ、市民の多様化する機能の拡大を目指すためにも、施設と機能を切り分けて、市全体・地域全体を見渡した適正規模・適正配置ができるあり方を検討し、それに見合った施設維持管理を選定することが必要です。

課題③ 情報提供・発信の充実

市やスポーツ関係団体などは、市民に対して運動・スポーツの教室や大会・イベント等の情報を随時提供しています。

ライフステージやライフスタイルによって求める情報やわかりやすい情報が異なることを踏まえつつ、ICTを活用したタイムリーな情報提供やその人に適するプッシュ型の情報提供など、情報提供を充実することが必要です。

(3) 地域活性化につなげるために

地域資源を活用したスポーツツーリズムによる交流人口の拡大など、地域活性化に向けた取り組みを整理します。

課題① スポーツ合宿・イベントの誘致

本市は、温暖な気候をはじめ、海・山・温泉などの豊かな自然資源や、テーマパークなどの観光・文化交流施設、サイクリングルートやスケートボード広場のような他地域にはないスポーツ施設など豊富な地域資源を有しています。

今後は、他地域と差別化できる本市の地域資源を最大限活かしつつ、「いわき市スポーツコミッション」を中心とした体制を強化し、スポーツ合宿・イベントの誘致において、国内外から選ばれ続ける地となるよう取り組んでいくことが必要です。

また、スポーツ大会・イベントの誘致は、スポーツの競技者・観戦者・関係者・ボランティア・マスコミなど、多くの方を誘客し、地域に経済的な効果や交流の効果をもたらします。

その効果は規模に応じて大きくなり、直接消費などの直接効果だけではなく、関連産業などへ波及する間接効果ももたらします。

さらに、サイクリングなどの野外レクリエーションやスポーツ参加・観戦後の観光等、スポーツと観光を掛け合わせたスポーツツーリズムを展開し、また、市民や市内事業者がその取組みに積極的に参画することにより、効果は相乗的に高まります。

今後は、スポーツ大会・イベントの誘致による効果を高めるため、観光など他分野と連携しつつ、市民や市内事業者が積極的に参画するスポーツ大会・イベントの誘致と受入体制づくりが必要です。

課題② 東京 2020 大会と RWC 2019 の大会レガシーの継承

本市では、RWC 2019 に出場したサモア独立国ラグビー代表チームが事前キャンプを実施し、東京 2020 大会においても、サモア独立国を相手国としたホストタウンに登録され、本市での事前キャンプの実施が予定されていました。（※東京 2020 大会における事前合宿は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となりました。）

東京 2020 大会と RWC 2019 を契機に、スポーツや文化を通じた次世代の人財育成、共生社会の実現、グローバル化の推進、地域ブランディング化を進め、大会のレガシーとして継承していくことが求められています。

1 基本方針

「スポーツでつながるまち いわき」

～ 健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり ～

本市に関わる誰もが、地域の特性や様々な地域資源を活かしながら、世代・競技レベル・障がいの有無に関わらず、自分に合ったスポーツの楽しみ方を見つけ、スポーツが充実した生活の一部として定着し、生涯を通じて健康で生き生きと暮らすとともに、スポーツを通じて、ともに支えあい、主体的にそれぞれが参画し、新しい価値を生みだし地域の活性化を図る「スポーツ都市“いわき”」を実現するため、『「スポーツでつながるまちいわき」～健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり～』を基本方針とします。

なお、その実現に向けては、「スポーツ都市宣言」の趣旨を踏まえるとともに、スポーツの力を活用したSDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）の達成も視野に入れながら取り組むこととします。

スポーツ都市宣言

わたくしたちいわき市民は、スポーツを愛し、健全な心とからだをつくり明るく住みよい豊かないわき市を築くため、ここに「スポーツ都市」の宣言をする。

1. みんなでスポーツを楽しみましょう。
1. スポーツを愛しすこやかな心とからだをつくりましょう。
1. 力をあわせて、スポーツの場と機会をつくりましょう。
1. スポーツを通じ、友情の輪を世界にひろげましょう。

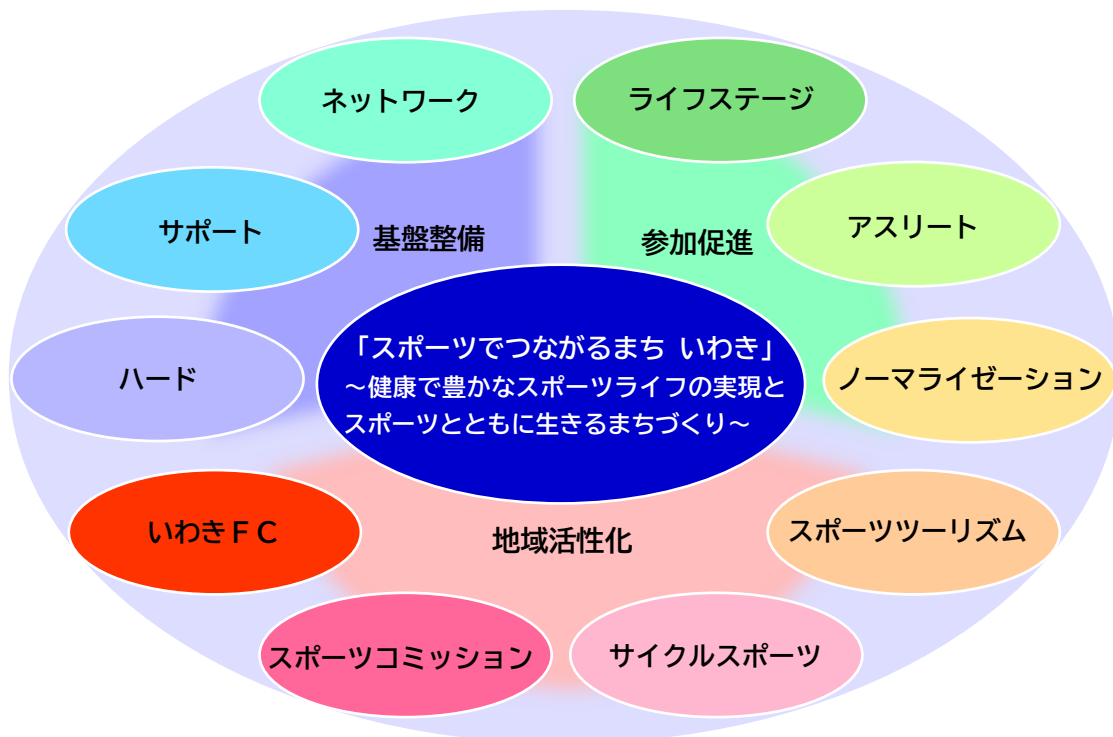
昭和61年3月31日制定

2 基本目標

2-1 基本目標

基本方針である『「スポーツでつながるまち いわき」～健康で豊かなスポーツライフの実現とスポーツとともに生きるまちづくり～』のもと、スポーツへの参加促進、スポーツの基盤整備、スポーツによる地域活性化の観点から、「ライフステージ」・「アスリート」・「ノーマライゼーション」・「ネットワーク」・「サポート」・「ハード」・「スポーツツーリズム」・「サイクルスポーツ」・「スポーツコミッション」・「いわきFC」の観点を設定し、各々の観点に基づく10の基本目標を位置付けます。

10の基本目標の観点



10の基本目標

参加促進	ライフステージ	市民の多様なニーズやライフステージに応じた子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを楽しむことのできる生涯スポーツの推進やスポーツ教育の推進を図ります。
	1 生涯スポーツ活動の推進	
	アスリート	競技者の自己実現を支援するとともに、トップレベルの大会で活躍する競技者の輩出やトップアスリートとの交流により競技スポーツの推進を図ります。
	2 競技スポーツの推進	
	ノーマライゼーション	障がい者が気軽にスポーツ活動に取り組める環境や機会の提供、パラスポーツの推進により、共生社会の実現を目指します。
	3 障がい者スポーツの推進	
基盤整備	ネットワーク	市民や事業所、各種関連団体が連携した組織体制や情報提供体制を構築し、ネットワーク基盤を強化します。
	4 スポーツに関わる人・まち・情報のネットワーク強化	
	サポート	市民ニーズに対応した質の高い指導者やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の育成・確保を図ります。
	5 指導者・ボランティアの育成	
	ハード	安全で利用しやすいスポーツ施設の整備や利用者のニーズに対応した適切な管理運営を推進するとともに、既存ストックを有効に活用し、施設利用者のサービス向上を図ります。
	6 施設の整備・管理運営の推進	
地域活性化	スポーツツーリズム	本市の自然環境やスポーツ・レジャー施設等の地域資源を活かしたスポーツを「する」・「みる」・「ささえる」「知る」ことを目的とした旅行先としての魅力を高め、交流人口の拡大を目指します。
	7 地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進	
	サイクルスポーツ	自転車文化を地域に浸透させ市民の自転車利用により健康増進を図るとともに、市外からのサイクリスト誘客による総合的なサイクルスポーツを推進します。
	8 自転車を活用した健康増進と地域資源を活用したサイクルスポーツの推進	
	スポーツコミッション	関係機関・団体との連携による受入体制を整備し、スポーツ大会の開催や合宿を誘致することにより、交流人口の拡大を図り地域経済活性化を推進します。
	9 スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化	
	いわきFC	市内唯一のプロスポーツチームであるいわきFCと連携して、スポーツが持つ力を最大限に活用した人・まちづくりを推進します。
	10 いわきFCとの連携	

2-2 目標指標

スポーツの「参加促進」と「基盤整備」に関する基本目標の達成に向けた目標指標、スポーツによる「地域活性化」に関する基本目標の達成に向けた目標指標を設定します。

令和7年度の間見直しにおいて、国のスポーツ基本計画や県のスポーツ推進基本計画、社会情勢などを踏まえ、目標達成に必要な課題等を整理し、必要に応じて取組みなどを見直すことで、本計画の目標期間である10年後の令和12年度までに、目標達成の方向性に基づく目標指標を達成することを目指します。

(1) 参加促進と基盤整備に関する目標指標

指 標	目標達成の方向性	現 状	目標指標 令和12年度
◇ 週1回以上のスポーツ実施率	国の目標値を上回る	51.1%	65.0%
A 全国、体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点	全国平均値を上回る	小5 97.25 中2 100.32	101.0 101.0
B 生活習慣病での標準化死亡比	全国平均値に下げる	心疾患 男：128.9 女：114.3 脳血管疾患 男：127.5 女：130.5	心疾患・脳疾患 男女ともに100
C 障がい者向けスポーツ教室・イベントの参加者数	着実に増やす	660人/年	950人/年
D スポーツ仲間づくりの支援システムの構築	市民に定着する	未整備	構築して運用 市民に定着
E スポーツボランティア実施率	着実に増やす	16.3%	20.0%
F スポーツ施設利用者の満足度	着実に向上させる	29.5%	50.0%

※ 現状値◇・A・C・E・Fは令和元年度、Bは平成25～29年の数値

(2) 地域活性化に関する目標指標

指 標	目標達成の方向性	現 状	目標指標 令和12年度
◇ 市内観光入込客数（交流人口）の拡大	着実に増やす	7,553,200人/年	9,000,000人/年
A 市外からの合宿リピート率	着実に向上させる	37.7%	50.0%
B いわきFCに対する機運の醸成	着実に向上させる	57.1%	80.0%

※ 現状値◇は令和元年、Aは平成28～令和元年度、Bは令和元年度の数値

※ 市内観光入込客数は、いわき市観光まちづくりビジョンに記載されている令和5年度目標値であるため、当該ビジョンの目標値に変更があった場合は、本計画の目標指標も変更します。

第4章

スポーツ施策の推進

1

基本目標

生涯スポーツ活動の推進

ライフステージ

市民の多様なニーズやライフステージに応じた子どもから高齢者まで、誰もがスポーツを楽しむことのできる生涯スポーツの推進やスポーツ教育の推進を図ります。

具体的な取組み

1-1 子どものスポーツへの関心の高揚と運動の習慣化による体力向上

スポーツを通じた健康づくりや体力の向上は、子どもたちの心身のバランスのとれた発育・発達に不可欠であることから、スポーツを知り、スポーツの楽しさを体験できる場、機会を提供・創出し、子どもたちが積極的に運動・スポーツに親しみながら、生涯にわたる豊かなスポーツライフを形成する習慣や意欲、能力を育成することに努めます。

また、子どものスポーツへの関心は、家庭におけるスポーツ環境も影響することから、保護者と子どもがともに取り組むことができるスポーツ教室などの実施や、スポーツが子どもの健康や心身の発達に重要なことを発信し、学校体育での習慣的な取組をはじめ運動部活動や地域クラブ活動などにより、子どもの体力向上を促進します。

1-2 働く世代や子育て世代、女性などライフスタイルとともにあるスポーツへの参加支援

スポーツの実施率が低下する働く世代や子育て世代や、スポーツの実施率、実施時間が低い女性がスポーツ活動に参加できるよう、仕事や家事、育児など自分のライフスタイルに合ったスポーツを選択し、日常的にできるよう、親子で参加可能なスポーツイベントの開催等、様々なスポーツに参加できるような機会を提供します。

1-3 高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるスポーツ活動の促進

高齢者が健康で生きがいをもって暮らせるように、施設のバリアフリー化も含めて、身近な地域で運動・スポーツに親しめる環境を整えるとともに、身体機能の低下に加え、持病を抱えていることも多い高齢者に配慮した運動・スポーツやレクリエーションの普及・啓発を促進します。

1-4 多くの市民が参加・参画するスポーツイベント・教室の開催

市民一人ひとりが、それぞれのライフステージに応じて自分に合った運動・スポーツを発見する機会として、また、楽しさや爽快感等を感じてスポーツの素晴らしさを心や体で知る機会として、さらには、日頃の練習の成果を試す場として、スポーツ推進委員などスポーツ関連団体が連携して、スポ

ーイベント・教室の開催を推進します。

また、少子高齢化と合わせて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、スポーツを始めとするさまざまな活動が制限され、地域コミュニティの減退が進んでいる状況を踏まえ、公民館及び地域団体等のスポーツイベントなどの開催を推進することで、学校・家庭・地域が連携し、スポーツ活動を通じて、参加者同士や地域住民等の交流を促進、市民の体力向上とスポーツの振興を図ります。

1-5 オンライン開催など多様な方法によるスポーツイベント・教室の推進

市域が広くスポーツ施設へアクセスしにくい状況や仕事や家事・育児などの時間制約で参加しにくい状況などを克服しつつ、多くの市民がスポーツに参加できるように、生活様式へのICTの普及を活かしたオンライン開催、デジタル技術を活用した新たなスポーツの機会など、多様な方法によるスポーツイベント・教室の開催を推進します。

1-6 総合型地域スポーツクラブなど地域におけるスポーツの場の充実と運営体制の強化

地域の実情やニーズに応じたスポーツ活動を充実するため、総合型地域スポーツクラブや地区体育協会が持続的に運営できるように、人材の育成・確保、組織運営体制の強化を推進します。

1-7 スポーツに対し社内外で積極的な取り組みをしている企業の支援

従業員の健康管理や運動・スポーツへの参加の促進に積極的に取り組む企業や、地域の運動・スポーツの振興に協力する企業などに対して、効果的に取り組む方法の情報提供や企業間の交流・連携などの支援を行います。

1-8 既存スポーツの持続と新しいスポーツの普及の支援

既存スポーツの持続と、エクストリームスポーツなど新しいスポーツの普及により、多様な種目を市民に提供し、市民の関心・適性に応じた運動・スポーツへの参加を促進します。



市民スポーツ教室「バドミントン教室」



市民スポーツ教室「親子体力向上教室」



市民スポーツ教室「なわとび教室」



体育館無料開放事業「ニュースポーツフェスティバル」



さわやか運動教室「笑いヨガ」

競技者の自己実現を支援するとともに、トップレベルの大会で活躍する競技者の輩出やトップアスリートとの交流により競技スポーツの推進を図ります。

具体的な取組み

2-1 小・中・高生への一貫指導体制による競技力の向上

全国大会等で活躍する競技者の育成を目指して、個人の特性や発育・発達段階に応じた小・中・高生への一貫した指導体制を、市スポーツ協会や各種競技団体等と連携して持続的に取組みます。

2-2 ハイレベルなスポーツ大会への競技者の派遣支援

市民の競技力向上に対する気運を高めるとともに、オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際大会や、国民スポーツ大会などの全国大会等へ出場するため、市スポーツ協会などの競技団体や県と連携しながら選手・団体等の支援を推進します。

2-3 トップレベルの競技スポーツに触れる機会の充実

プロスポーツ等のレベルの高いスポーツに触れる機会の創出などにより、市民のスポーツへの関心・興味を高め、スポーツに親しむ機会を増やすことでスポーツ人口を増やし、競技力の向上を支援していきます。

2-4 スポーツ団体の育成・支援と団体間連携の促進

効果的なスポーツ推進をさらに進めるために、市スポーツ協会をはじめ各種競技団体や総合型地域スポーツクラブ、各スポーツ少年団などのスポーツ団体の持続的な運営を育成・支援するとともに、互いの連携を強化していきます。



市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会



ラグビーリーグワン
(いわきハワイアンズスタジアム)

障がい者が気軽にスポーツ活動に取り組める環境や機会の提供、パラスポーツの推進により、共生社会の実現を目指します。

具体的な取組み

3-1 障がい者の身近な生涯スポーツの普及・支援

障がい者の健康づくり・自立や社会参加を促進するため、身近な場所で気軽にスポーツ活動に取り組むことができるよう、参加しやすいスポーツ教室等の充実や、障がい者スポーツ団体・指導者の育成・支援、施設のバリアフリー化に取り組めます。

3-2 パラスポーツ振興による競技者の育成と共生社会の実現

本市におけるパラスポーツ競技者の育成を目指し、福祉関連機関や特別支援学校等と連携した競技者の発掘・育成、指導者の育成・確保、障がい者用スポーツ用具や施設の整備に取り組むとともに、市民のパラスポーツへの理解を促進し共生社会の実現に向けて取り組めます。

3-3 日本パラサイクリング連盟との連携

日本パラサイクリング連盟の事務局が本市に所在することや、「いわき平競輪場」・「いわき七浜海道」など、本市のサイクルスポーツ資源を活かして、パラサイクリングの競技者の育成や普及、パラサイクリングの大会やイベント・合宿の誘致に取り組めます。



パラサイクリング (©JPCF)



ボッチャ



車いすバスケットボール

市民や事業所、各種関連団体が連携した組織体制や情報提供体制を構築し、ネットワーク基盤を強化します。

具体的な取組み

4-1 市民の「する」・「みる」・「ささえる」「知る」スポーツ仲間づくりの支援

スポーツを続けるためには、多くの仲間と交流し、競い合い、励ましあい、みんなが楽しさや喜びを分かち合うことが大切であり、スポーツを通じた人と人との交流や地域内の交流を促進することを支援します。

4-2 大学や関連する他分野団体、他の自治体組織との連携・協力の促進

大学の運動・健康に関する研究成果の活用や部活動との連携、福祉・健康・医療・観光など他分野の団体との連携、福島県や近隣市町村、友好都市などとの連携など、多様な団体との連携・協力によるスポーツ振興に取り組みます。

4-3 民間企業とタイアップしたスポーツ事業展開など官民連携の促進

プロチームや実業団の競技団体、民間スポーツクラブやスポーツ関連企業などとのタイアップにより、相乗効果のある官民連携によるスポーツ振興に取り組みます。

4-4 情報を伝えたい対象への伝わりやすい方法による情報提供

市民に様々なスポーツ機会を提供するためには、市民のライフステージやライフスタイルを考慮して市民が求める情報をわかりやすく、迅速に知らせる必要があることから、ICTを活用しつつ確実な情報提供の充実に取り組みます。



市民参加型スポーツイベント

市民ニーズに対応した質の高い指導者やボランティアなどのスポーツ活動を支える人材の育成・確保を図ります。

具体的な取組み

5-1 スキルの高いスポーツ指導者の育成・確保

多様化する市民のスポーツニーズに対応できる指導者と、トップアスリートの育成のために必要となるスキルの高い指導者を育成するため、各競技団体と連携しながら、民間企業や大学などの専門知識を生かした講習会の実施とともに、高齢化等を背景に指導者が不足しているなか、指導意向のある潜在的な指導者の発掘や、選手のセカンドキャリアとしての指導者への活用など、新たな指導者の発掘・活用に取り組みます。

5-2 中学校運動部活動の地域展開への対応

今後、想定される中学校運動部活動の地域展開においては、生徒たちの活動の場となる「地域クラブ」には、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することが重要とされており、教育委員会と連携しながら、本市における地域展開の進捗状況を把握し、子どもたちが将来にわたって継続的にスポーツ活動に親しむ機会を確保できるよう、指導者の確保・養成に取り組みます。

5-3 スポーツボランティアの参加意識の醸成と育成・確保

本市がスポーツ大会やイベントの誘致をはじめ、スポーツを振興していくためには市民のスポーツボランティアへの参加率を高めていくことが重要であることから、ボランティアの活動体制の整備や活動内容等の重要性、必要性などの啓発に努めるとともに、市民がボランティア活動に参加しやすいような仕組みづくりやネットワーク構築に取り組みます。

5-4 市民ぐるみでスポーツを「ささえる」仕組みづくり

スポーツ団体が先導しつつ、多くの市民や企業なども参加して、スポーツを「ささえる」仕組みづくりに取り組みます。



いわきサンシャインマラソンボランティア

安全で利用しやすいスポーツ施設の整備や利用者のニーズに対応した適切な管理運営を推進するとともに、既存ストックを有効に活用し、施設利用者のサービス向上を図ります。

具体的な取組み

6-1 施設の現状や利用状況を踏まえたスポーツ施設や設備の整備・充実と集約・機能複合化

新たな種目の増加、ルール変更及び著しい気候変動など、スポーツそのものを取り巻く環境が大きく変化している中、施設の現状や利用状況を踏まえたスポーツ施設や設備の整備・充実を図るとともに、市公共施設等総合管理計画の個別施設計画に基づき、施設の長寿命化、集約・機能複合化による効率的な施設運営に取り組みます。

6-2 利用者のニーズに応じつつICTの活用や民間活力などによる効率的な施設の管理運営

スポーツ施設の新築、運営方法の見直しにあたり、利用者のニーズに応じつつ、ICTの活用やコンセッションをはじめとしたPPP/PFI等の民間活力により、柔軟な管理運営や、スポーツ施設の魅力や収益力の向上に取り組みます。

6-3 学校（廃校を含む）・公民館・公園施設等の既存施設の有効活用

運動・スポーツが気軽にできる場として、身近な地域の学校（廃校含む）・公民館・公園等の公共施設を有効活用できるよう推進します。



いわき市いわき陸上競技場



いわき市立総合体育館（大体育館）



いわき市平テニスコート



いわき市民プール

地域資源を活用したスポーツツーリズムの推進

本市の自然環境やスポーツ・レジャー施設等の地域資源を活かしたスポーツを「する」・「みる」・「ささえる」「知る」ことを目的とした旅行先としての魅力を高め、交流人口の拡大を目指します。

具体的な取組み

7-1 本市の自然環境・地域資源を活かしたスポーツツーリズムの推進

本市の温暖な気候や海・山・温泉などの豊かな自然資源とテーマパークや水族館などの観光・文化交流施設を活かしながら、サイクルスポーツやサーフィン・スケートボードなどのエクストリームスポーツや野外レクリエーション等スポーツを目的とした観光誘客を推進します。

7-2 大会やスポーツイベントの開催による交流人口拡大

市内スポーツ団体が主催する市外のスポーツ団体等を交えた独自大会の開催を支援するとともに、スポーツ団体が持つ中央競技団体との人的つながりを活かしたトップスポーツ公式戦や、大規模イベント等を誘致することで、様々なスポーツイベントの開催地として、本市の温暖な気候や温泉などの自然資源、テーマパークや水族館・フラなどの観光・文化芸術資源も結び付けて、ブランドイメージの向上を図るとともに、交流人口の拡大を目指します。

7-3 「いわきサンシャインマラソン」との連携

参加者の評価が年々高まり日本を代表する市民マラソンのひとつに成長した「いわきサンシャインマラソン」との連携を強化し、市民のスポーツ参加の促進と交流人口の拡大に取り組みます。



Bリーグ公式戦エキシビジョンマッチ



いわきサンシャインマラソン

自転車文化を地域に浸透させ市民の自転車利用の促進を図るとともに、市外からのサイクリスト誘客による総合的なサイクルスポーツを推進します。

具体的な取組み

8-1 安全で快適なサイクリング環境の整備

「サイクルスポーツのまち」として、市民が環境にやさしく、健康づくりに効果をもたらす自転車を日常的に使うことを促進しつつ、「いわき市自転車活用推進計画」に基づく安全で快適なサイクリング環境の整備を推進します。

8-2 自転車利用の推進

市民が自転車を利用するきっかけづくりや健康増進・体力向上を図るため、世代ごとの教室などへの支援プログラムの充実に努め、多くの市民が気軽にサイクルスポーツに親しめる機会を提供します。

8-3 自転車通勤の推奨

市内の事業所等に対し、従業員の健康増進、通勤コストの削減など、事業所が受ける恩恵の理解を促すことで自転車通勤を推奨する事業所の増加を目指した取組みを推進します。

8-4 効果的な情報発信・収集

生活習慣病予防やダイエットへの効果など健康面における自転車利用のメリットや、スポーツクラブや民間企業等における健康増進に資する自転車利用に関する事例及び効果、さらには、国内外の観光誘客を推進するため、関係団体や観光・交通事業者などと連携して情報の収集・発信を行います。

8-5 サイクルスポーツ資源を活用したツーリズムの推進

「サイクルイベント in いわき」や、「ツール・ド・いわき」などのサイクルイベントと連携するとともに、いわき七浜海道やいわき平競輪場などの施設も活用して、交流人口の拡大と「サイクルスポーツのまち」としての情報発信に取組み、サイクルツーリズムを推進します。

8-6 「ふくしま浜通りサイクルルート」のブランドイメージ向上の取組み

「いわき七浜海道」を含む「ふくしま浜通りサイクルルート」について、国が推奨するモデルルート及びナショナルサイクルルートの指定に向けた取組を行い、受入体制や情報発信を強化することで、国内外から多くのサイクリストが訪れる魅力ある地域づくりを推進し、ブランドイメージ向上を図ります。

8-7 サイクリストの拠点づくりと受入環境の整備

いわき七浜海道に近接する各サイクルステーションに加えて、市内外のサイクリストが気軽に立ち寄れる交流の場を創出し、自転車文化の育成・発信により一層努めるとともに、サイクリングロードを楽しむ観光客に本市の魅力をより感じていただくため、休憩場所やトイレ・飲料水等を提供し、サイクリストをおもてなしする協力店（「サイクリストっぷ」）の充実を図ります。



サイクルイベント in いわき



ツール・ド・いわき



いわき平競輪場



復興サイクリングロード「いわき七浜海道」



新舞子サイクルステーション

スポーツ合宿・イベントの誘致による地域活性化

関係機関・団体との連携による受入体制を整備し、スポーツ合宿・イベントを誘致することにより、交流人口の拡大を図り地域活性化を推進します。

具体的な取組み

9-1 本市の自然環境等の特性を活かしたスポーツ合宿の推進

本市の温暖な気候と首都圏などからのアクセスの良さをアピールしながら、市外スポーツ団体が合宿するために必要な各種手続き等の負担を軽減し、合宿を円滑に実施できるよう支援することで、リピート率の向上に努めます。

9-2 交流人口拡大を地域活性化につなげる仕組みづくり

スポーツ合宿・イベントの誘致により、湯本温泉などの宿泊施設に宿泊需要を創出し地域経済活性化へとつなげていくため、市内スポーツ団体と経済団体が一体となった受入体制の整備を目指したスポーツコミッションの機能強化に取り組みます。

9-3 新舞子ヴィレッジを活用した合宿プランの推進

宿泊施設とスポーツ施設が併設された新舞子ヴィレッジの機能を最大限に活用し、パラスポーツを含めた総合的なスポーツ合宿誘致に取り組みます。

9-4 東京 2020 大会と RWC 2019 のムーブメントの継承

東京 2020 大会と RWC 2019 を契機に、子どもから大人まで市民一人一人がスポーツの価値や意義を理解し、身近なスポーツに触れることで、多くの市民がスポーツに親しむ機会が増える大会レガシー（遺産）として継承していきます。



視覚障害者柔道連盟合宿



サモア独立国ラグビー代表チーム事前キャンプ

市内唯一の地域密着型プロスポーツチームであるいわきFCや、いわきFCを運営する株式会社いわきスポーツクラブと連携し、スポーツが持つ力を最大限に活用した人・健康・まちづくりを推進します。

具体的な取組み

10-1 健康増進への活用

いわきFCパークの機能（クリニック・リハビリ・トレーニング）を活用し、いわきFCが持つ最先端のスポーツ医学のノウハウを地域に還元することで、地域医療の充実や健康増進につなげます。

10-2 「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」との連携

いわきFCが掲げるスポーツの力を最大限に活用したまちづくりに共感した市内の様々な団体が参画している「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」と連携し、市民のスポーツへの興味や関心を高めるとともに、ホームタウンとしての機運醸成を図りながら、スポーツを通じたまちづくりを推進します。

10-3 双葉郡の自治体との連携

いわきFCのホームタウン拡大とともに、双葉郡自治体と連携した事業展開により、広域連携を図りながらスポーツを通じたまちづくりを推進します。

10-4 シティセールスの強化

いわきFCの公式戦に合わせたシティセールスを、年間を通して強化し、本市の認知度向上を図ります。



Jリーグ公式戦（ホームゲーム）



「スポーツによる人・まちづくり推進協議会」によるスポーツ講習会

第5章 計画の進行管理

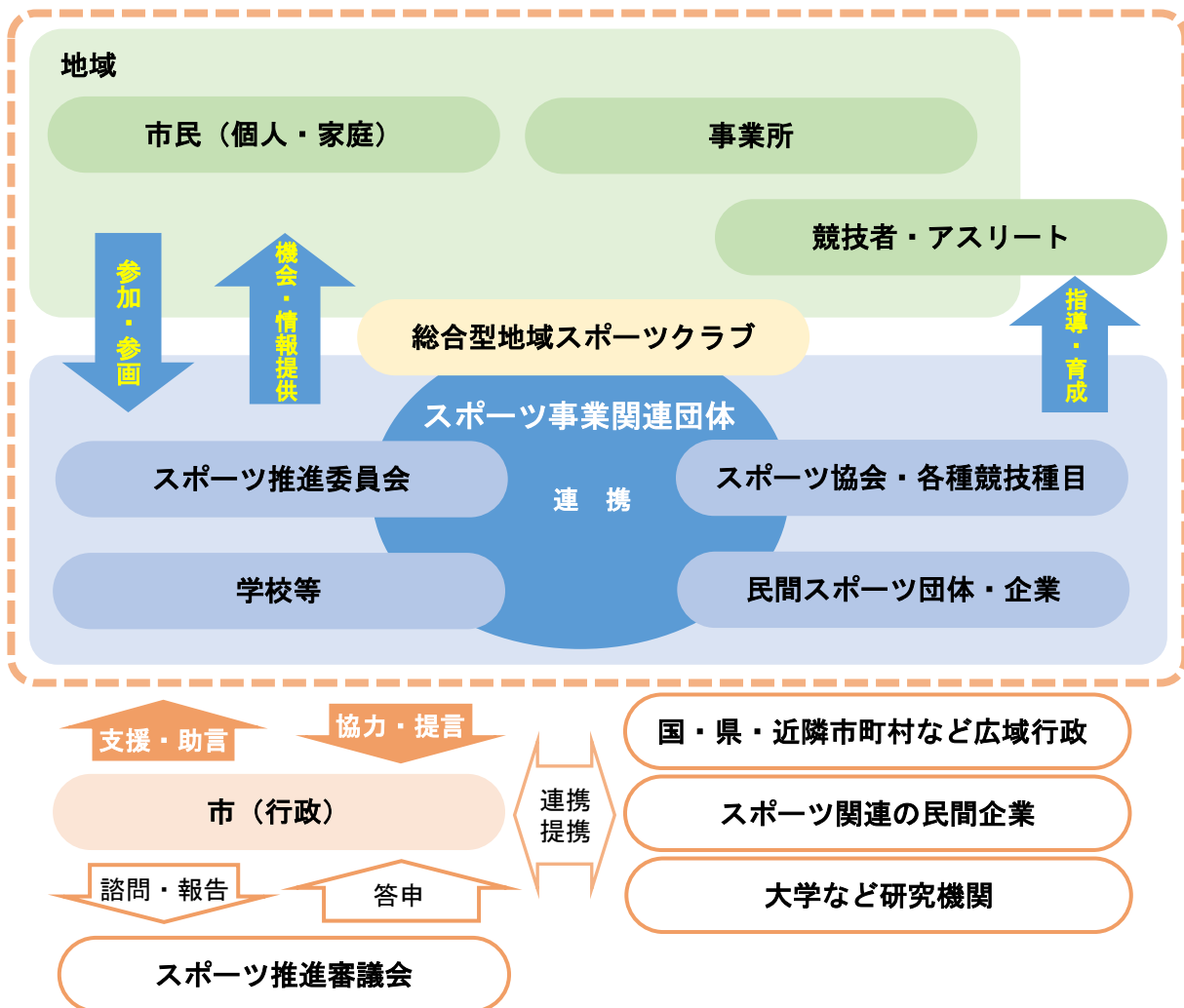
1 スポーツ推進に向けた主体と役割

市民（個人・家庭・地域）・民間事業者・学校・スポーツ関係団体や関係機関及び市が、各々の役割を果たしつつ、多様な主体と相互に連携して「協働」による取組みを積極的に実践します。

近隣市町村などとの広域的な連携を進めるとともに、スポーツクラブやスポーツ関連企業とのタイアップによるスポーツの推進に取り組めます。

スポーツは保健・福祉・教育・観光など多様な分野と密接に関わっていることから、全庁的な協力体制のもと各種施策を展開し、総合的・効果的に計画の推進を図ります。

関係主体と連携のイメージ



関係主体の主な役割

No.	主 体	役 割
1	地 域	○都市部や中山間地域の実情に応じた健康づくり・ スポーツ推進活動 ○スポーツを通じた地域コミュニティの形成・充実
2	市 民（個人・家庭）	○「する」・「みる」・「ささえる」「知る」スポーツへの積極 的参加 ○健康づくりへの主体的取組み
3	学校等	○児童生徒のスポーツの推進 ○地域への施設開放による協力
4	事業所	○従業員のスポーツ参加の支援・従業員の健康管理 ○スポーツ事業の支援
5	民間スポーツ団体・企業	○指導者の派遣やノウハウの提供 ○活動の場の提供
6	競技者・アスリート	○競技力の向上 ○次世代競技者へのサポート
7	市スポーツ協会 各種競技種目団体	○地域でのスポーツ事業の実施 ○市民の競技力の向上 ○スポーツ少年団活動の推進 ○スポーツ大会等の開催支援
8	市スポーツ推進委員会	○スポーツの普及活動 ○スポーツに関する指導、助言
9	総合型地域スポーツクラブ	○スポーツ活動とスポーツを通じた交流の促進 ○市民に身近で継続的なスポーツの場の提供
10	市スポーツ推進審議会	○スポーツ基本法に基づくスポーツ推進に関する 重要事項の審議
11	市（行政）	○市民ニーズの的確な把握・分析 ○スポーツ推進策の企画・立案 ○スポーツ団体への支援 ○スポーツ大会の開催支援 ○スポーツ施設の整備・充実

2 計画の進行管理体制

本計画は、PDCA サイクル（Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)）の継続的改善手法により進行管理します。

また、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価するとともに、市民ニーズの把握に努めつつ、いわき市スポーツ推進審議会の意見等を踏まえて改善していきます。

PDCAサイクルによる計画進行管理



3 改定に向けて

本計画が終了する令和12年度に向けて、PDCAサイクルに基づく進行管理に加え、計画の成果、目標指標の達成状況を確認するため、地域性や世代、性別等の属性分布に配慮したアンケート調査を実施する必要があります。

アンケートの実施にあたっては、広く市民に周知するとともに、計画見直しの際に用いた「インターネットによる調査」に限らず、郵送や市内の各公共施設や団体等への協力をお願いし、市民のスポーツ活動の実施状況の適切な把握に努めます。

用語の解説 (五十音順、アルファベット順)

いわきサンシャインマラソン

県内初の日本陸連公認コースによるフルマラソンを中心とした大会です。第1回は平成22年から始まり、令和7年の第16回には8,439人のエントリーのうち、5,609人は市外からエントリーしています。

いわき市スポーツ協会

13の地区体育協会と34の競技種目団体、中学校・高等学校体育連盟、スポーツ少年団の50団体（令和7年度）で組織されており、年間を通して各種スポーツ大会・教室等の開催や選手強化事業の実施など、本市のスポーツ振興の中心的な役割を果たしています。

※ 令和8年4月よりいわき市体育協会からいわき市スポーツ協会へ名称変更

株式会社いわきスポーツクラブ

平成27年に設立。Jリーグに所属するいわきFCの運営のほか、スポーツ教室やスポーツ施設の運営なども行っている。

いわき市スポーツ推進委員

スポーツ基本法に基づき、地域スポーツの推進役として、地域や社会体育団体等からの推薦により市が委嘱しており、任期は2年で、令和7年4月1日現在、74名が活動しています。（定員74名）地域のスポーツ振興を図るため、市民に対してスポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行い、さらにはスポーツ振興の企画・コーディネーターとして幅広い活動をしています。

いわき七浜海道

白砂青松が広がる本市特有の美しい海岸線に沿って、復旧・復興事業により整備された防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用し、自転車走行空間として整備する勿来の関公園から久之浜防災緑地までの総延長約53kmのサイクリングルートです。

※ いわき七浜海道は、「ふくしま浜通りサイクルルート」のいわきエリアにおけるメインコースです。

いわきFCのU-18・U-15・Girls U-15

Uはアンダー（Under）の略であり、U-18は18歳以下、U-15は15歳以下、Girls U-15は15歳以下の女子のチームです。

エクストリームスポーツ

アクションスポーツやアドベンチャースポーツなどとも呼ばれ、マウンテンバイクやボルダリングなどスピードや高さなどの危険やスリルを伴い、大自然や都市の公共スペースなどで行われるニュースポーツの一種です。特に、音楽やファッションを取り込んで若者を中心とするサブカルチャーを形成しています。

オルタナティブスポーツ

身体能力の高い参加者が手を抜くなどプレイの楽しさや競技性を損なわずに多様な身体能力とニーズを持つ参加者全員が能力を出し切るとともに楽しめるスポーツの概念です。

個別施設計画(いわき市)

令和6年5月に策定。市公共施設等総合管理計画の目標を具現化し、個別施設毎の方向性を見える化したもの。各個別施設のあり方の方向性とスケジュールを具体的に整理しています。

コンセッション

施設の所有権を移転せず、民間事業者インフラの事業運営に関する権利を長期間にわたって付与する事業方式です。

シティセールス

都市（地域）の売り込みのことで、現在、全国各地で盛んに行われている活動です。

シルバーピアード

老人クラブ連合会が主催する高齢者スポーツ大会です。11種目の競技を地区対抗で行い合計得点を競い合うほか、いわき盆踊り等のアトラクションが行われています。

シルバーリハビリ体操指導士

地域において介護予防のための、シルバーリハビリ体操を普及させるボランティア活動実践者であり、指導者です。

新体力テスト

国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえ、体力・運動能力調査を全面的に見直して、現状に合ったものとしたものであり、平成11年度の体力・運動能力調査から導入されています。小学校・中学校ともに、「握力」・「上体起こし」・「長座体前屈」・「反復横とび」・「20mシャトルラン」・「50m走」・「立ち幅とび」・「ボール投げ」の8項目を実施します。

スポーツイベント

スポーツイベントには、スポーツ合宿・大会なども含まれています。

スポーツインテグリティ

「インテグリティ」とは、高潔さ・品位・完全な状態を意味する言葉で、スポーツインテグリティとは、スポーツがドーピング、八百長、不正操作、暴力、ハラスメント、反社会的行為などの脅威からスポーツを守り、公平・公正で信頼できる状態を指します。

スポーツ基本法

スポーツ基本法は、昭和36年に制定されたスポーツ振興法（昭和36年法律第141号）を50年ぶりに全面改正し、スポーツに関し基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務並びにスポー

ツ団体の努力等を明らかにするとともに、スポーツに関する施策の基本となる事項を定めたものです。

スポーツコミッション

交流人口の拡大や地域の活性化を図るため、観光関係団体等と連携しながらスポーツ合宿等の一元的な受付窓口を設置し、スポーツ施設や宿泊先の紹介や手配など、主催団体の各種手続きの負担を軽減するためのサービスを提供しながら、スポーツ大会・合宿の誘致を推進するものです。

スポーツ少年団

地域を基盤として「スポーツによる青少年の健全育成」を目的に、スポーツを中心としたグループ活動を行う団体で、ジュニア期に必要な幅広い分野での様々な活動を通じて、仲間との連帯や友情、さらにはその過程の中で協調性や創造性などを育み、人間性豊かな社会人としての成長（青少年の健全育成、人間形成）に大きな役割を果たしています。

本市では、令和7年9月1日現在、15競技種目、89の単位団に2,040名の団員が活動しています。

スポーツツーリズム

スポーツを「する」・「みる」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「ささえる」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも、スポーツを通じて、その土地の歴史、文化、食、自然を知り、地域のスポーツ文化に関する歴史や背景を「知る」ことができるよう、主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものです。

スポーツ都市宣言

昭和61年3月、平成7年の国民体育大会「ふくしま国体」を控え、スポーツに対する市民の関心も一段と高まりつつある中、市民がスポーツへの理解と関心を深め、スポーツを愛し、健全な心と体をつくり、明るく住みよい豊かないわき市を築くため宣言したものです。

スポーツによる人・まちづくり推進協議会

いわきスポーツクラブの理念に共感し、地域連携のもと、スポーツによる人・まちづくりを推進することにより、東北一「夢・感動・未来に溢れる都市いわき」の実現に寄与することを目的として、市内各界、各分野約70団体参加のもと平成29年10月に設立された協議会です。

スポーツボランティア

地域のスポーツ団体やスポーツクラブ、各種スポーツ大会・イベント等において、スポーツに関する高い知識や技能、時間などを進んで提供し、その運営や指導等の活動を支えるボランティアです。

総合型地域スポーツクラブ

地域住民が主体的に運営するスポーツクラブで、複数の競技種目があり、身近な地域で子どもから高齢者まで、また、初心者から競技者まで、誰もが自分の年齢や体力・興味・技術レベルなどに応じて気軽に活動できるスポーツクラブです。

体力・運動能力調査

小学生から高齢者までの国民の体力・運動能力の現状を明らかにするため、最初の東京オリンピックが開催された昭和 39 年以来、毎年実施されている調査です。

地域ブランディング

経済産業省の定義では、地域発の商品・サービスのブランド化、地域のイメージのブランド化を結び付け、好循環を生み出し、地域外の資金・人材を呼び込むという持続的な地域経済の活性化を図ることとされていますが、地域への誇りや愛着の創造に主眼を置くことで、より持続的な地域の発展を目指すという考えも含まれます。

中学校部活動の地域展開

令和 4 年 1 2 月にスポーツ庁と文化庁から「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関するガイドライン」が示され、急激な少子化が進む中でも、将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実できるよう、学校単位で部活動として行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で関係者が連携して支え、生徒の豊かで幅広い活動機会を保障するもの。（地域クラブ活動においては、学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展させつつ、新たな価値を創出することが重要とされている。）

東京 2020 大会

第 32 回東京 2020 オリンピック競技大会、東京 2020 パラリンピック競技大会の略称（通称は東京 2020 オリンピック競技大会、東京 2020 パラリンピック競技大会）。なお、両大会を合わせた東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会は、本市の統一的表現として使用しています。

※ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な感染拡大を受け、本来の開催日程から 1 年延期し、東京 2020 オリンピック競技大会は 2021 年（令和 3 年）7 月 23 日から 8 月 8 日まで、東京 2020 パラリンピック競技大会は、同年 8 月 24 日から 9 月 5 日まで開催されました。

ノーマライゼーション

障がいのある人が障がいのない人と同等に生活し、ともにいきいきと活動できる社会を目指すという理念のことです。

ビジネスパーソン

従来、ビジネスマンやビジネスウーマンと表現されていた働く人を性差せず総称するものです。

標準化死亡比

人口 10 万人あたりの死亡者の割合である死亡率を各地域の年齢構成の違いを除いて比較するための指標です。

ふくしま浜通りサイクルルート

福島県の太平洋沿岸部（浜通り）を横断し、サイクリングを楽しみながら東日本大震災・原子力災害からの復興過程（ホープツーリズム）や、美しい海岸線・里山の風景を体感できる複合型サイクリン

グコースです。一次ルート（海側）約 178 km、二次ルート（山側）約 153 kmとなっており、両ルートを組み合わせることで、多彩なライディングを楽しむことができます。

プッシュ型の情報提供

必要な情報をユーザーの操作を伴わず、提供側から自動的に配信する情報提供のことです。

フラシティいわき

国内におけるフラ文化発祥の地である本市に根付いているアイデンティティは「フラ」であることを改めて認識し、既存の地域資源と調和・融合を図りながらシティセールスを推進していくという意味を込めて作成され、ロゴは、いわきの海と空を表す青、太陽、そしていわき人の熱を表す赤をイメージカラーとなっています。

ホストタウン

東京 2020 大会をはじめ、RWC2019 等の国際大会に向けて、参加する国・地域とのさまざまな交流を図り、地域を活性化させる取組みを行う地方公共団体を支援する国の取組みのこと。ホストタウンを結んだ自治体と大会参加国は、国際大会の事前キャンプの実施や、スポーツ・文化交流を行います。

ユニバーサルスポーツ

すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方をスポーツに導入し、障がい者と健常者がともにプレイするスポーツの概念です。

DX

DX とは、デジタルトランスフォーメーション（Digital Transformation）の略で、直訳すると「デジタル変革」という意味になります。デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革することを指します。

ICT

Information & Communications Technology の略であり、情報や通信に関連する科学技術の総称です。

PPP/PFI

PPPとは、Public Private Partnership の略であり、公共サービスの提供に民間が参画する手法を幅広く捉えた概念で、民間資本や民間のノウハウを活用し、効率化や公共サービスの向上を目指すものです。PFIとは、Private Finance Initiative の略であり、公共施設等の建設・維持管理・運営等を民間の資金・経営能力及び技術的能力を活用することで、効率化やサービスの向上を図る公共事業の手法のことです。

RWC

Rugby World Cup（ラグビーワールドカップ）の略です。

SDGs

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略であり、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国際サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことで、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

WBSC

World Baseball Softball Confederation（世界野球ソフトボール連盟）の略です。

資料編

1 計画策定の経緯

令和元年 11 月 28 日	第 1 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和元年 12 月 12 日 ～令和 2 年 1 月 24 日	スポーツの実施状況等に関するアンケート
令和 2 年 3 月 30 日	第 2 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 2 年 7 月 27 日 ～令和 2 年 8 月 21 日	第 3 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会（書面会議）
令和 2 年 10 月 2 日	第 4 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 2 年 11 月 27 日	第 5 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 3 年 2 月 3 日	第 6 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 3 年 2 月 10 日	いわき市教育委員会付議
令和 3 年 2 月 22 日 ～令和 3 年 3 月 8 日	パブリックコメント
令和 3 年 3 月 18 日	第 7 回いわき市スポーツ推進計画検討委員会
令和 3 年 3 月 23 日	第 1 回いわき市スポーツ推進審議会

2 いわき市スポーツ推進計画検討委員会委員名簿

区分	団体等名称	委員氏名	備考
高等教育機関	東日本国際大学	福迫 昌之	委員長
スポーツ関係団体	いわき市体育協会	高羽 博樹	副委員長
	福島県エアロビック連盟	佐々木 喜栄子	
	いわき市スポーツ推進委員会	石井 文雄	
	いわき地区総合型スポーツクラブ連絡協議会	高田 幸子	
	(株)いわきスポーツクラブ	岩清水 銀士朗	
教育関係者 及び 関係行政機関	いわき地区高等学校体育連盟	佐竹 正徳	
	いわき市中学校体育連盟	吉田 信治	
	いわき市小学校長会	中野 直人	
	福島県いわき教育事務所	小松 和宏	
経済・観光団体	いわき商工会議所	酒井 比呂志	
	いわき経済同友会	波多野 和茂	
	(一社)いわき観光まちづくりビューロー	鹿崎 耕司	
その他	(株)L. A. P	伊藤 英雄	
	(一財)いわき市公園緑地観光公社	松本 守利	

3 スポーツ推進計画中間見直しの経緯

令和6年度

いわき市スポーツ推進審議会において、令和7年度の中間見直しに向けた実施内容を協議

令和6年7月10日 第1回いわき市スポーツ推進審議会

令和6年9月19日 第2回いわき市スポーツ推進審議会

令和7年3月17日 第3回いわき市スポーツ推進審議会

令和7年度

いわき市スポーツ推進計画の中間見直しに向けて、検討委員会を組織し見直し事業を実施

令和7年5月1日 スポーツの実施状況等に関するアンケート

令和7年6月30日 いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討委員会設置要綱制定

令和7年7月28日 第1回いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討委員会

令和7年11月28日 第2回いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討委員会

令和8年1月21日 いわき市教育委員会付議

令和8年1月28日
～2月11日 パブリックコメント募集

令和8年2月19日 第3回いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討委員会

令和8年3月13日 第2回いわき市スポーツ推進審議会

4 いわき市スポーツ推進計画中間見直し検討員会委員名簿

区分	団体等名称	氏名	備考
高等教育機関	いわき短期大学	中川 希望	委員長
スポーツ関係団体	市体育協会（地区体育協会）	水谷 大	副委員長
	市体育協会（競技種目団体）	矢吹 仁孝	
	市スポーツ推進委員会	奥田 和子	
	株式会社いわきスポーツクラブ	平澤 俊輔	
	いわき社会福祉施設事業団	田仲 奈々	
教育関係者 及び 関係行政機関	いわき地区高等学校体育連盟	渡邊 亮	
	市中学校体育連盟	山際 裕之	
	市小学校長会	鈴木 賢一	
	県いわき教育事務所	菊池 明彦	
経済・観光団体	いわき商工会議所	荒川 純	
	いわき観光まちづくりビューロー	鹿崎 耕司	

5 スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要

調査対象	18歳以上のいわき市民3,000名
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査期間	令和元年12月12日(木)～令和2年1月24日(金)
調査方法	郵送配布・回収
回答数	886件(回答率29.5%)

<回収状況>

	回答数	送付件数	回答率
男性	408件	1,462件	27.91%
女性	472件	1,538件	30.69%
不明	6件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

	回答数	送付件数	回答率
18～29歳	70件	376件	18.62%
30～39歳	98件	369件	26.56%
40～49歳	150件	478件	31.38%
50～65歳	265件	735件	36.05%
66～79歳	232件	705件	32.91%
80歳以上	69件	337件	20.47%
不明	2件	—	—
合計	886件	3,000件	29.53%

地区	性別	回答数	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～65歳	66～79歳	80歳以上	不明
平	男性	122件 100.0%	11件 9.0%	11件 9.0%	19件 15.6%	38件 31.1%	32件 26.2%	11件 9.0%	0件 0.0%
	女性	149件 100.0%	13件 8.7%	21件 14.1%	24件 16.1%	53件 35.6%	32件 21.5%	6件 4.0%	0件 0.0%
小名浜	男性	87件 100.0%	2件 2.3%	10件 11.5%	16件 18.4%	24件 27.6%	27件 31.0%	7件 8.0%	1件 1.1%
	女性	91件 100.0%	8件 8.8%	9件 9.9%	23件 25.3%	28件 30.8%	18件 19.8%	5件 5.5%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
勿来	男性	75件 100.0%	5件 6.7%	6件 8.0%	13件 17.3%	17件 22.7%	26件 34.7%	7件 9.3%	1件 1.3%
	女性	73件 100.0%	7件 9.6%	13件 17.8%	13件 17.8%	16件 21.9%	15件 20.5%	9件 12.3%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
常磐	男性	37件 100.0%	2件 5.4%	3件 8.1%	4件 10.8%	13件 35.1%	15件 40.5%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	48件 100.0%	7件 14.6%	6件 12.5%	8件 16.7%	14件 29.2%	11件 22.9%	2件 4.2%	0件 0.0%
	無回答	2件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	1件 50.0%	0件 0.0%
内郷	男性	28件 100.0%	3件 10.7%	2件 7.1%	6件 21.4%	8件 28.6%	9件 32.1%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	44件 100.0%	3件 6.8%	8件 18.2%	7件 15.9%	14件 31.8%	8件 18.2%	4件 9.1%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
四倉	男性	16件 100.0%	0件 0.0%	1件 6.3%	2件 12.5%	5件 31.3%	7件 43.8%	1件 6.3%	0件 0.0%
	女性	21件 100.0%	2件 9.5%	1件 4.8%	5件 23.8%	8件 38.1%	3件 14.3%	2件 9.5%	0件 0.0%
遠野	男性	6件 100.0%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	1件 16.7%	0件 0.0%
	女性	6件 100.0%	1件 16.7%	0件 0.0%	1件 16.7%	2件 33.3%	2件 33.3%	0件 0.0%	0件 0.0%
	無回答	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
小川	男性	6件 100.0%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%	4件 66.7%	1件 16.7%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	2件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
好間	男性	14件 100.0%	1件 7.1%	0件 0.0%	3件 21.4%	3件 21.4%	4件 28.6%	3件 21.4%	0件 0.0%
	女性	18件 100.0%	1件 5.6%	3件 16.7%	2件 11.1%	5件 27.8%	5件 27.8%	2件 11.1%	0件 0.0%
三和	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	5件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 20.0%	2件 40.0%	2件 40.0%	0件 0.0%
田人	男性	2件 100.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	5件 100.0%	0件 0.0%	1件 20.0%	0件 0.0%	2件 40.0%	2件 40.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
川前	男性	4件 100.0%	1件 25.0%	0件 0.0%	1件 25.0%	1件 25.0%	1件 25.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	2件 100.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 50.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
久之浜・大久	男性	8件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	5件 62.5%	2件 25.0%	1件 12.5%	0件 0.0%
	女性	7件 100.0%	0件 0.0%	1件 14.3%	1件 14.3%	1件 14.3%	3件 42.9%	1件 14.3%	0件 0.0%
その他	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%
	女性	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —	0件 —
不明	男性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%
	女性	1件 100.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	0件 0.0%	1件 100.0%	0件 0.0%

6 令和7年度 スポーツの実施状況等に関するアンケートの実施概要

集計・分析等の時間短縮と経費削減のため、インターネットによるアンケート調査を実施。

周知方法	広報いわき5月号に掲載、市内公共施設にチラシを設置、市公式HP
回答件数	272件
注意事項	各項目の%は、各項目の全回答数に対する比率となっている。

(1) 性別について

男性	女性
176	96
64.7%	35.3%

全回答数
272

(2) 年齢について (※ 80歳以上の回答なし)

18~29歳	30~39歳	40~49歳	50~65歳	66~79歳
32	30	70	127	13
11.8%	11.0%	25.7%	46.7%	4.8%

全回答数
272

(3) 居住地区について

平	小名浜	勿来	常磐	内郷
117	52	19	28	20
43.0%	19.1%	7.0%	10.3%	7.4%
四倉・久ノ浜・大久	好間	小川・遠野	川前・田人	その他
12	12	7	3	2
4.4%	4.4%	2.6%	1.1%	0.7%

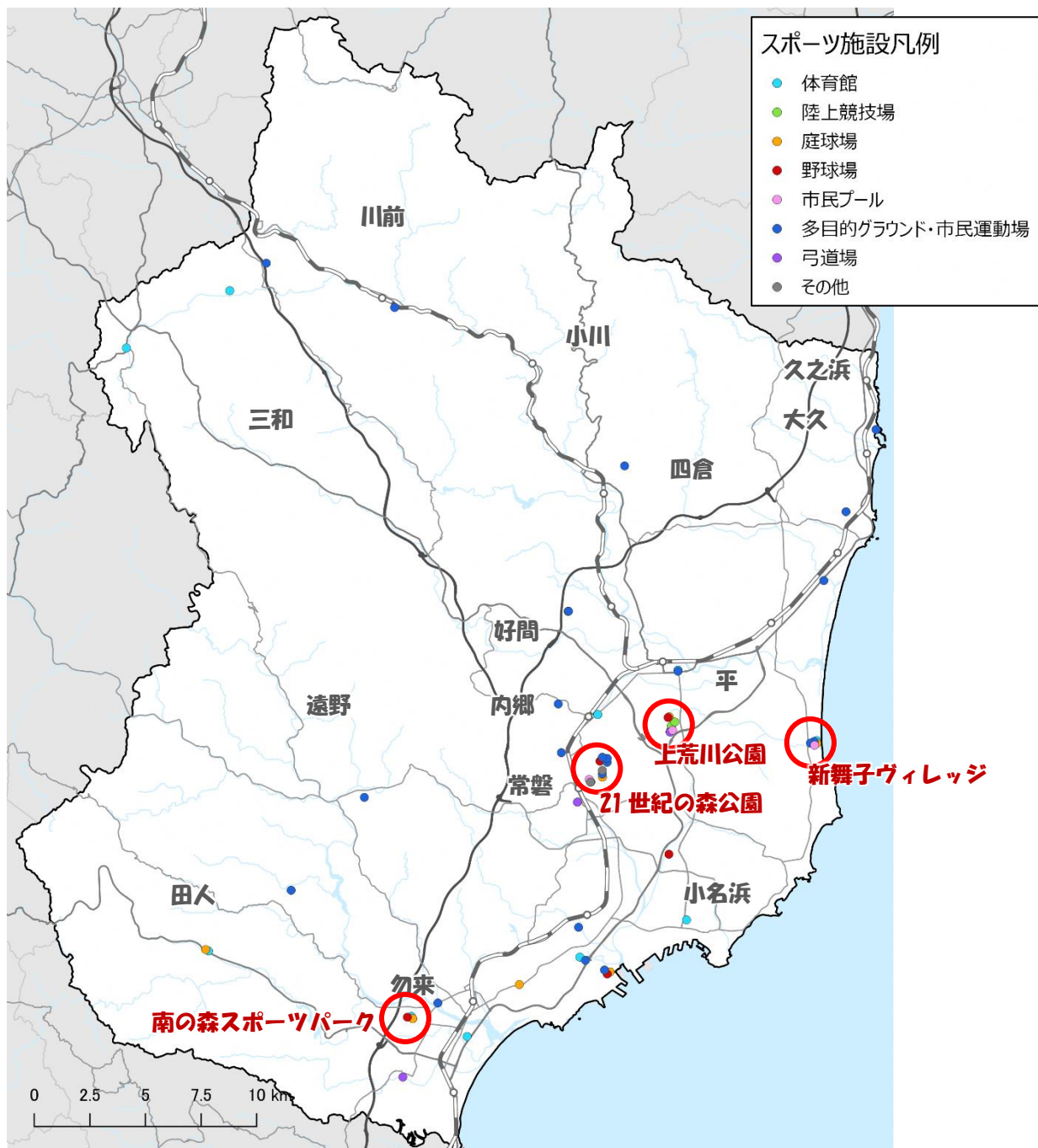
全回答数
272

7 スポーツ施設の立地状況

本市には、主要なスポーツ施設が55施設あります。

各地区には、学校施設も含めて体育館やグラウンドなど一定の整備水準のスポーツ施設が立地していますが、野球場や陸上競技場などの規模の大きな施設は、平地区などの市街地に集中して立地しており、特に「21世紀の森公園」・「上荒川公園」・「新舞子ヴィレッジ」・「南の森スポーツパーク」に施設の集積が多い状況です。

スポーツ施設の位置図



スポーツ施設の一覧

区分	No.	施設名
体育館	1	上荒川公園総合体育館
	2	南部アリーナ
	3	平体育館
	4	新舞子体育館
	5	小名浜武道館
	6	勿来体育館
	7	関船体育館
	8	上三坂体育館
	9	下三坂体育館
	10	内郷コミュニティセンター
	11	いわきサン・アビリティーズ体育館
	12	企業交流館体育館
	13	田人おふくろの宿体育館
陸上競技場	14	いわき陸上競技場
	15	いわき陸上競技場補助競技場
庭球場	16	平テニスコート
	17	新舞子テニスコート
	18	南部テニスコート
	19	21世紀の森公園テニスコート
	20	小名浜港運動施設テニスコート
	21	田人おふくろの宿テニスコート
	22	金山公園テニスコート
	23	好間中央公園テニスコート
野球場	24	平野球場
	25	小名浜野球場
	26	いわきグリーンスタジアム
	27	南部スタジアム
	28	小名浜港運動施設ソフトボール場

区分	No.	施設名
市民プール	29	いわき市民プール
	30	新舞子ヘルスポール
	31	いわきゆったり館クアハウス
多目的グラウンド・市民運動場	32	新舞子フットボール場
	33	新舞子多目的運動場
	34	好間多目的広場
	35	仁井田運動場
	36	いわきグリーンフィールド
	37	いわきグリーンベース
	38	21世紀の森公園多目的広場
	39	21世紀の森公園ファミリースポーツガーデン
	40	平市民運動場
	41	小名浜市民運動場
	42	勿来市民運動場
	43	常磐市民運動場
	44	内郷市民運動場
	45	四倉市民運動場
	46	遠野市民運動場
	47	小川市民運動場
	48	田人市民運動場
49	川前市民運動場	
50	久之浜市民運動場	
弓道場	51	いわき弓道場
	52	勿来弓道場
	53	関船弓道場
その他	54	いわきサン・アビリティーズトレーニング室
	55	21世紀の森公園スケートボード広場

※ 泉町下川北緑地グラウンド、泉町下川東緑地グラウンド、下三坂運動広場は、運動施設から除外

8 サイクルスポーツ関連

(1) 環境整備

① ふくしま浜通りサイクリルルート

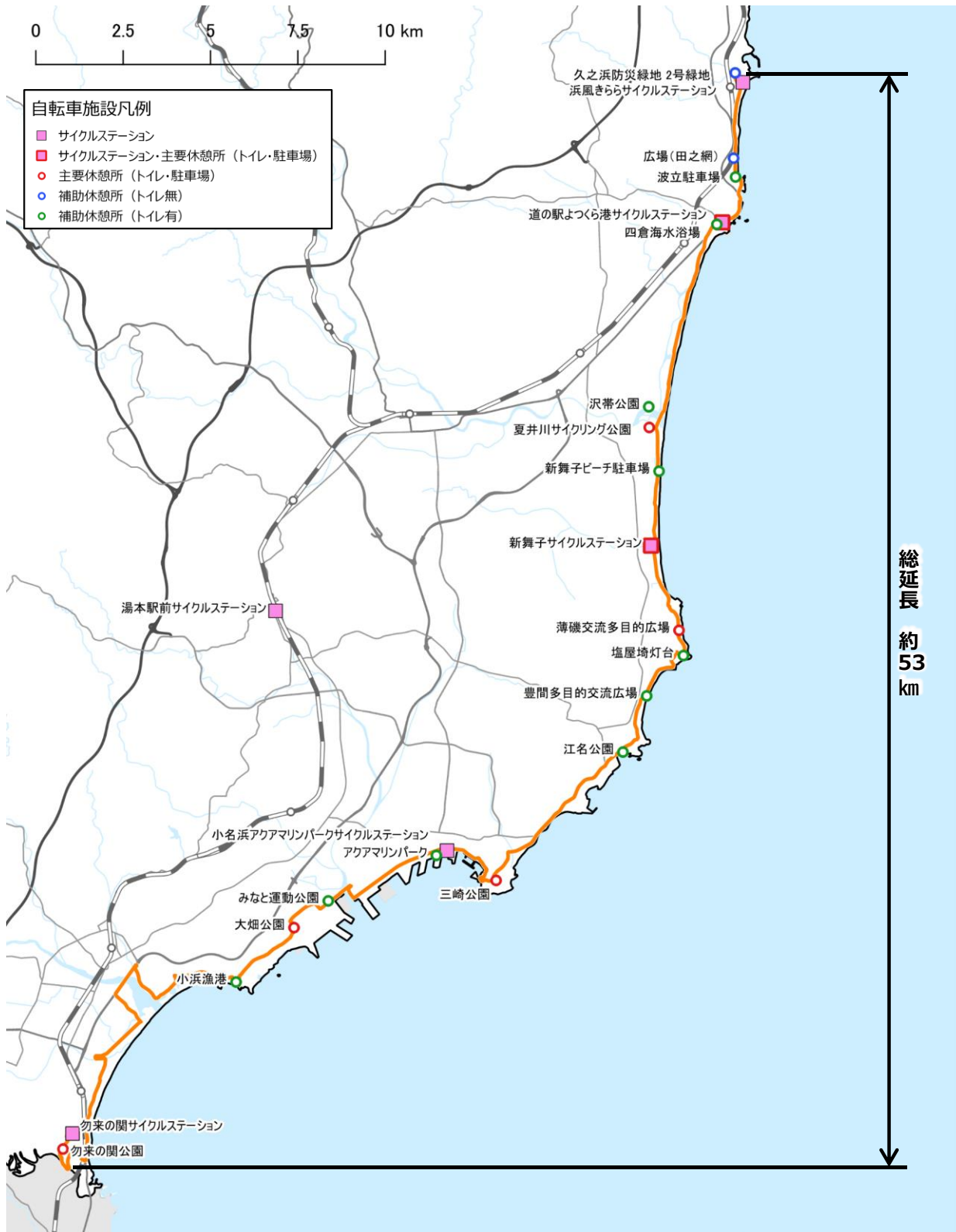
福島県の太平洋沿岸部（浜通り）を横断し、サイクリングを楽しみながら東日本大震災・原子力災害からの復興過程（ホープツーリズム）や、美しい海岸線・里山の風景を体感できる複合型サイクリングコースです。一次ルート（海側）約 178 km、二次ルート（山側）約 153 kmとなっており、両ルートを組み合わせることで、多彩なライディングを楽しむことができます。



②いわき市自転車道路網「海岸線ルート」(愛称：いわき七浜海道)

白砂青松が広がる本市特有の美しい海岸線に沿って、復旧・復興事業により整備された防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用し、自転車走行空間として整備する勿来の関公園から久之浜防災緑地までの総延長約 53km のサイクリングルートです。

※ いわき七浜海道は、「ふくしま浜通りサイクルルート」のいわきエリアにおけるメインコースです。



③サイクルステーション

サイクルステーション名	レンタサイクル 設置車両・台数
ホテル高木屋	電動アシスト 2台
道の駅よつくら港	電動アシスト 2台 電動三輪 1台
颯サイクル	ロード 2台 クロス 3台 こども用 4台 電動アシスト 6台
いわき新舞子ハイツ	ロード 4台 クロス 14台 こども用 6台 電動アシスト 1台 タンデム 3台
Guest House & Lounge FARO iwaki	ロード 2台
いわき湯本温泉旅館協同組合	電動アシスト 2台
いわき・ら・ら・ミュウ	クロス 5台 子ども用 3台 電動アシスト 1台
ホテルミドリいわき植田	クロス 2台 子ども用 1台
宿泊交流施設 AC 館	クロス 2台 子ども用 1台 タンデム 1台

(2) サイクリスト受入環境

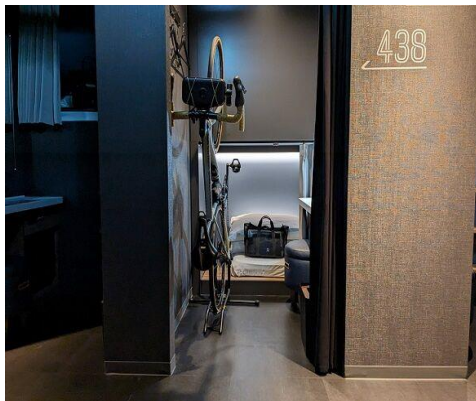
①いわき新舞子ハイツのリノベーション事業

いわき七浜海道を活用したサイクルツーリズムの推進を目的に、同ルート沿線に位置する宿泊施設である「いわき新舞子ハイツ」にサイクルステーションを整備するとともに、宿泊施設をサイクリスト向けにリノベーションする事業を令和元年度に実施しました。



②民間宿泊施設の取組み

いわき駅前の民間宿泊施設（ホテル）においては、いわき七浜海道の整備を契機に、サイクリスト宿泊プランの創設やレンタサイクルの取組みを令和元年9月から開始しています。



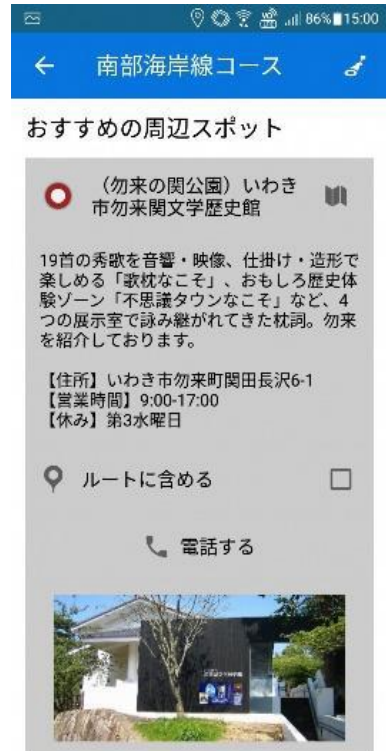
(3) サイクルステーション

レンタサイクルや工具・空気入れの無料貸出し、休憩スペース等が確保されたサイクルステーションを官民共創の体制で設置しています。



(4) サイクリング情報発信状況

「いわきサイクリングマップ 2008」をベースに、いわき観光まちづくりビューローと連携し、ポケットサイズに折り畳みができる「いわきサイクリングマップ」及びスマートフォン等で使用可能な「自転車 NAVITIME」に掲載したコースを活用して、市内外に本市のサイクリング環境の紹介をします。



(5) 市内のサイクル施設

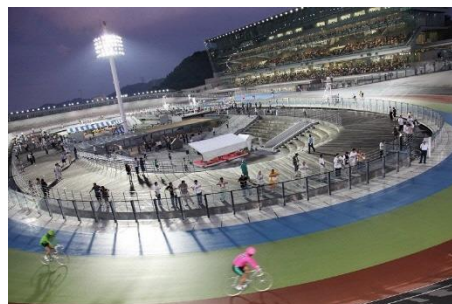
① 夏井川サイクリング公園

夏井川サイクリング公園はいわき市自転車道路網「新川・夏井川ルート」の拠点施設で、サイクリングコースのほか、ターゲットバードゴルフコースが設置されています。



② いわき平競輪場

いわき平競輪場は昭和 26 年に開設された競輪場であり、競輪事業のほか、バンク開放日を設けることにより、市民が自転車競技を体験できる場として活用されています。





いわき市スポーツ推進計画

発行日 令和8年4月

発行者 いわき市観光文化スポーツ部スポーツ振興課
〒970-8686

福島県いわき市平字梅本 21 番地

TEL 0246-22-7553 FAX 0246-22-1285

MAIL:sports-shinko@city.iwaki.lg.jp